

K-752

# 馬上台遺跡発掘調査報告書

1995

山形市教育委員会

# 馬上台遺跡発掘調査報告書

1995

山形市教育委員会



# 序 文

本報告書は、山形市教育委員会が平成 6 年度に実施した市内馬上台地区土地区画整理事業にかかる「馬上台遺跡」の発掘調査の結果をまとめたものであります。

馬上台遺跡は、平成 5 年度に山形市教育委員会が区画整理事業予定地内で行った遺跡詳細分布調査によって、新に発見されました。今回の調査は、区画整理事業と埋蔵文化財保護との調整をうけて、記録保存を前提にした緊急発掘調査として実施したものであります。調査の結果、山形市の歴史を解明するうえで貴重な平安時代の資料を数多く得ることができました。

近年、市内においても、住民福祉の向上を目的とした各種の社会整備に関する開発事業の増加に伴い、埋蔵文化財保護との調整も増加の傾向にあります。山形市教育委員会においては、埋蔵文化財保護のため、努力を続けていく所存です。

終わりに、本調査にご協力をいただきました馬上台土地区画整理事業組合の皆様ならびに関係各位に感謝申し上げますとともに、本書が埋蔵文化財保護に対する理解を深め、その保護と啓蒙の一助となれば幸いです。

平成 7 年 3 月

山形市教育委員会

教育長 酒匂 勝雄

## 例 言

- 1 本遺跡は、山形市大字陣場に所在する新規発見の遺跡である。
- 2 本報告書は、山形市教育委員会が1994年に実施した馬上台土地区画整理事業に係わる「馬上台遺跡」の発掘調査報告書である。
- 3 調査期間は、94年10月11日～12月7日の30日間と、一部については同年5月16～27日の10日間の延べ40日間である。
- 4 調査体制は、下記のとおりである。  
調査主体 山形市教育委員会  
調査担当 ハ 文化課  
調査担当者 文化課文化財係 主事 武田和宏  
事務局 山形市教育委員会文化課
- 5 本報告書の作成および編集は、武田が担当した。
- 6 調査および報告書の作成にあたり、以下の方々にご協力をいたいた。ここに記して感謝を申し上げる。  
馬上台土地区画整理事業準備委員会  
石垣勝幸、大矢秀一、金子みつの、黒沼繁蔵、  
原田とし子、樋口友吉、横尾平吉、吉田朔之助、  
東海林憲彦（以上発掘調査）  
岩井良太、大野清奈、張大石、東海林憲彦、  
阿部真一郎、斎藤仁（以上遺物整理）
- 7 本書で使用した土色は、『新版標準土色帖』（小山・竹原：1973）を使用した。
- 8 出土遺物図版中の●No.…は、須恵器を示す。
- 9 写真図版の縮尺は、特に統一していない。
- 10 出土遺物については、山形市教育委員会が一括保管している。

## 目 次

I 遺跡周辺の環境	1
II 調査にいたる経過	1
III 遺構・遺物	2
(1) A 地点	
・土壙(a) SK01	
(b) SK02	
(c) SK03	
(d) SK04	
(e) SK05	
(f) SK06	
(g) SK07	
・溝跡	4
・柱穴	4
(2) 取付道地点	4
IVまとめ	5
付 出土遺物一覧	6

## 図版目次

第1図 周辺の遺跡分布	
2 調査区位置図	
3 SK01平面図・セクション図	
4 SK02平面図・セクション図	
5 SK04平面図・セクション図	
6 SK05平面図・セクション図	
7 A地点の平面図	
8 SK01出土遺物(1)～3	
9 SK01出土遺物(2)～3	
10 SK01出土遺物(3)～3	
11 SK02出土遺物(1)～4	
12 SK02出土遺物(2)～4	
第13図 SK02出土遺物(3)～4	
14 SK02出土遺物(4)～4	
15 SK04出土遺物(1)～3	
16 SK04出土遺物(2)～3	
17 SK04出土遺物(3)～3	
18 SK05出土遺物(1)～5	
19 SK05出土遺物(2)～5	
20 SK05出土遺物(3)～5	
21 SK05出土遺物(4)～5	
22 SK05出土遺物(5)～5	

## 写真図版

第1図版 調査前 北から	
2 SK01、03検出 南から	
3 SK02検出 南から	
4 SK04検出 南から	
5 SK01、03セクション	
6 SK02南北セクション（北側）	
7 SK04東西セクション（西側）	
8 SK05南北セクション	
9 SK01沓出土状況	
10 SK05 縦櫛出土状況	
11 SK01完掘状況 南から	
12 SK02遺物出土状況	
13 SK04、SD02完掘状況 南から	
14 SK05完掘状況 東から	
第15図版 SK01出土遺物(1)～2	
16 SK01出土遺物(2)～2	
17 SK02出土遺物(1)～2	
18 SK02出土遺物(2)～2	
19 SK04出土遺物(1)～2	
20 SK04出土遺物(2)～2	
21 SK05出土遺物(1)～3	
22 SK05出土遺物(2)～3	
23 SK05出土遺物(3)～3	
24 その他の土壙	
25 遺構外(1)～2	
26 遺構外(2)～2	
27 墓書集成	

## I 遺跡周辺の環境

馬上台遺跡は、山形市街地の北西約1.5km山形市大字陣場に所在する新規発見の遺跡である。遺跡はJR左沢線東金井駅の東方、線路北側の水田および周辺の畑地に分布する。標高は約108mである。

山形盆地は南北約40km、東西約20kmの船底型の内陸盆地で、盆地のやや西寄りを北流する最上川に向かって各河川が流れ込み、それによって形成される複数の扇状地がひとつの盆地床となっている。山形市街地はこの盆地の東南部に位置し、盆地の東縁は奥羽山脈、西縁は白鷹丘陵に仕切られる。そしてさらに西には朝日山地があることで、これが北西からの季節風に対する障壁となり、こうした地理的要因により山形市を含む盆地南部は日本海側に位置しながらも冬期の降雪量の少ない寡雪地帯となっている。降水量も年間を通じて1,200mm前後と県内でも少ない地域である。

山形市街地がのる馬見ヶ崎川扇状地は、馬見ヶ崎川が何度も流路を変えながら発達してきた扇状地で、扇頂付近の標高が200mを越え、扇端部では100m以下となる。馬上台遺跡はこの扇状地のほぼ扇端部に位置する。

江戸時代の初期頃まではこの馬見ヶ崎川が当遺跡のすぐ北側を流れしており、現在もその旧河道が比較的明瞭に残る。地形的にはこの古い馬見ヶ崎川によって形成された自然堤防状の東西に延びる微小な台地となっている。そして南側は線路を挟んで一段低い水田面となっており、遺跡が広がる台地とは約1mの標高差がある。遺跡を含めその周辺は、特に台地上については近年の耕地整理により大幅に改変され、一帯が水田として開発利用されてきた。その影響は遺跡にも及び、表面踏査の際には土器の細片が広範囲で採集され、またA地点では調査区の北半分が大きく削平されていることがわかった。

## II 調査にいたる経過

平成4年度に山形市大字陣場馬上台地区内約14haにおいて、市街化区域編入と民間組合施行の区画整理事業による宅地開発が計画された。そのため山形市教育委員会では平成5年5月に同事業地内で表面等査を実施し、遺跡等の有無の確認をおこなった。その結果事業地内のほぼ全域で土師器・須恵器などの破片が採集され、遺跡の存在する可能性が生じた。そのため同年11月に遺跡の規模・性格を把握するため、同地区全域を対象に1×1mの坪掘調査を合計162ヵ所でおこなった。これにより、柱穴等の遺構を確認あるいは土器片が集中的に出土した地点のまとまりを、遺跡として4ヵ所を捉えることができた。

これをもとに山形市および山形市教区委員会では、

馬上台土地区画整理組合と協議を重ね、事業に先立ち発掘調査により遺跡の記録保存をはかることとなった。発掘調査を実施するにあたり、区画整理事業の工程の都合上事業地の東端に工事用の取り付け道路を設置する必要があり、その場所が遺跡のひとつに該当するためこの地点の調査を急ぐ必要があった。よってこの地点については他の3地点に先駆けて、平成6年5月に調査を実施することとした。他の3地点については水田・畑地にあたるため農作物の収穫を待って、同年10月の調査開始を予定した。

以上の経過により、調査期間は平成6年5月16日から6月1日までは取り付け道路部分について、同年10月11日から12月8日までは他の3地点について山形市教育委員会が主体となって緊急発掘調査を実施した。



「周辺の遺跡分布」

1 馬上台A	(平安)	12 志戸田	(繩文)	23 新井田	(奈良・平安)
2 # (取付道)	(平安)	13 塚田	(弥生・古墳・奈良・平安)	24 見崎	(奈良・平安)
3 山形城跡	(鎌倉・室町・江戸)	14 椿沢橋ノ内	(鎌倉・室町)	25 七瀬2号墳	(古墳)
4 川原田	(古墳)	15 隣塙	(古墳)	26 境田A	(奈良・平安)
5 鳥	(古墳)	16 境田B	(奈良・平安)	27 向河原	
6 桜東ノ木	(古墳)	17 境田C	(奈良・平安)	28 馬洗場A	
7 宮町古墳	(古墳・奈良・平安)	18 今塚	(弥生・古墳・奈良・平安)	29 馬洗場B	
8 長苗代糞理	(奈良・平安)	19 天神	(奈良・平安)	30 藤治糞敷	
9 五日町古墳	(古墳)	20 中野	(古墳)	31 河原田	
10 五日町	(奈良・平安)	21 服部	(奈良・平安)	32 楠ノ内	(鎌倉・室町)
11 飯塚	(古墳)	22 春日堂	(古墳)		

第1図 周辺の遺跡分布

### III 遺構・遺物

#### (1) A地点

A地点の発掘調査区は、前年度の試掘調査の結果と直前の追加的な坪掘調査に基づいて設定した。範囲は東西40m×南北30m(1,200m<sup>2</sup>)で、主な基本層序は、I 耕土、II 褐色土 III 黒色土(遺物包含層)、IV 砂層(地山)である。

調査により確認した主な遺構は、土壙、溝跡、柱穴である。調査区の現況は水田であるが、もとは北から南にやや傾斜する地形であり、そのため耕地整理の際には調査区北半側が地山まで大きく削平された。そして遺構にも大きく影響が及び、III層からは須恵器・あかやき土器等の多量の破片が採集された。

#### ① 土壙

土壙は15基を数えたが、特に大型のもの(直径が3m以上)4基とその他に区分できる。あかやき土器・農具等の木製品などの遺物のほとんどがこれらの土壙からの出土で、特に大型の4基に集中した。遺物の残存状態は比較的良好である。またSK02を除く各土壙は溝により互いに連結する様子がうかがえた。

#### (a) SK01 (4.75m×3.20m×0.50m)

調査区のほぼ中央南寄りに位置し、東西に長い楕円形で土壙の底は平坦である。南下するSD03がSK03を貫いてこの土壙に達し、また南東付近からSD01に向かって溝が延びる。

ここから出土した遺物は、あかやき土器を中心に入れ面黒色処理された土師器、須恵器(甕等)の破片、木製品がある。あかやき土器は高台の付くものと付かないものがあるが、内黒土師器にはすべて高台が付く。No.12~14、22は小型の壺で口径が11cm弱程度で定型化しており、No.22は内面に煤が付着する。No.18は小型の内黒土師器で、外面に墨書「中」がある。またNo.10は完形品である。

出土遺物はこの他土錐、棒状の木製品、薦石、沓

などがある。特に沓(No.803)は1/2の芯材を使用し、これを割り貫いて成形されている。また全体に漆が塗布され、修復された痕跡が認められる。

#### (b) SK02 (2.55m×3.10m×0.45m)

調査区の東北端に位置するやや南北に長い円形の土壙で、溝とは連結せずに単独で存在する。土壙の中央南北方向に暗渠(約10cm幅)が埋設されている。なお土壙内の西側壁面に柱穴が1個検出された。

出土した遺物はあかやき土器が中心で、内面あるいは内外面を黒色処理した土師器、須恵器(大甕等)の破片、木製品などがある。やはりあかやき土器には高台の付くものと付かないものがあり、内(外)黒色土師器もNo.50を除いてすべてに高台が付く。またこの土壙では特に高台壺の底部が種を問わず多く出土するのが特徴である(No.43~75)。No.34には墨書が書かれるが判読できない。No.76は大型の高台壺(あかやき)であるが、底部中央に約1cm径の穴が穿たれ、また高台部にはおそらくは3ヵ所の四角い穴が穿たれる。

木製品では、片端にはぞが削りだされた角材、金具が残存(1点)する曲物、薦石と推定されるもの、3ヵ所の穴が穿たれた棒状のもの、無数の金属の刃の痕跡がある槌などがある。また漆器の破片も出土している。

#### (c) SK03 (2.00m×1.50m×0.20m)

調査区の中央、SD01の北に位置するほぼ円形の摺り鉢状の土壙である。ここにはSD03が北から入り、南側のSK01へと抜けてゆく。

ここから出土した遺物は、あかやき土器の壺と高台壺の内黒土師器である。図化できた5点中4点に墨書があり、このうちNo.1013、1016、1015は「又」である。そしておそらくNo.1006の墨書も「又」である可能性が高い。



第2図 調査区位置図

(d) SK04 (4.40m × 3.60m × 0.50m)

調査区の南東端に位置するやや東西に長い楕円形で、底部は段々になった船底型である。土壙の北側にはSD02が接しており、逆に南側から2本の溝がSD01へと抜けてゆく。また土壙の西側の一部が暗渠によって切られる。

出土した遺物は、あかやき土器を中心として内面が黒色処理された土師器等の坏類と曲物等の木製品がある。ここでもあかやき土器には高台の付くものと付かないものがあり、内黒土師器はすべてに高台が付く。そして特に墨書のある坏が多く、そのほとんどは「又」と判読できる(No.81, 83, 85, 87, 90, 100, 101)。またNo.79は完形品である。木製品については曲物のみであるが、No. 812は両側に把手状のものが削りだされた

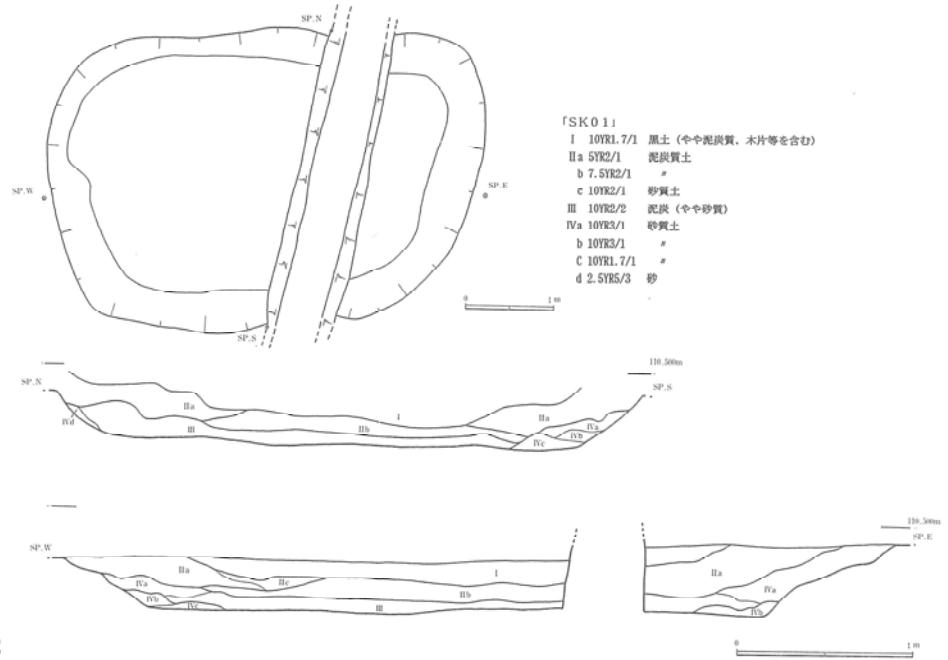
形状で、4カ所に留め金具が残存していることから底部にあたると考えられる。この他ヒョウタンの破片が出土した。

(e) SK05 (7.10m × 3.10m × 0.70m)

調査区の南端に位置する東西に長い楕円形で、SD01の途中に掘り込まれている。

ここで出土した遺物は、あかやき土器を中心として内面あるいは内外面を黒色処理された土師器等の坏類と、多種の木製品がある。

坏類については、あかやき土器の中でも圧倒的に小型の坏(口径11cm程度)が多い(No. 107~122, 129~135)。この内No.107, 109は完形品である。No.130は内面全体に付着物がある。No.128, 136, 139は墨書のある坏だが、No.136の「門」以外は判読ができない。またNo.125, 126, 128はSK01出土の破片と接合する。木製品は豊富な種類が出土する。No. 813は縦櫛で、柄の先端が扇状に削りだされ全体的に丁寧に成形される。No. 815は用途が不明であるが、片面に削り成形の痕跡がある棒状の製品である。細くなった先端は、擦れて4面の錐状になっている。No. 817は槌であるが、



第3図 SK01 平面図・セクション図

先端が擦れて丸くなる。SK02出土のNo.805と同形であるが断面が丸い。No.818は台で表裏面に無数の敲打痕がある。No. 819は薦石で削りの加工痕が明瞭に認められる。その他曲物、下駄、木枠、皿、櫛などが出土した。この他では、土錐が3点と完形のトチの実が50個前後出土した。

(f) SK06 (0.80m × 1.10m × 0.40m)

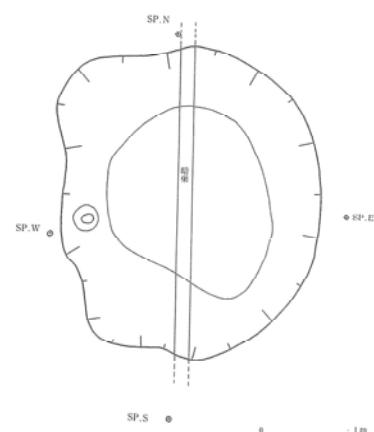
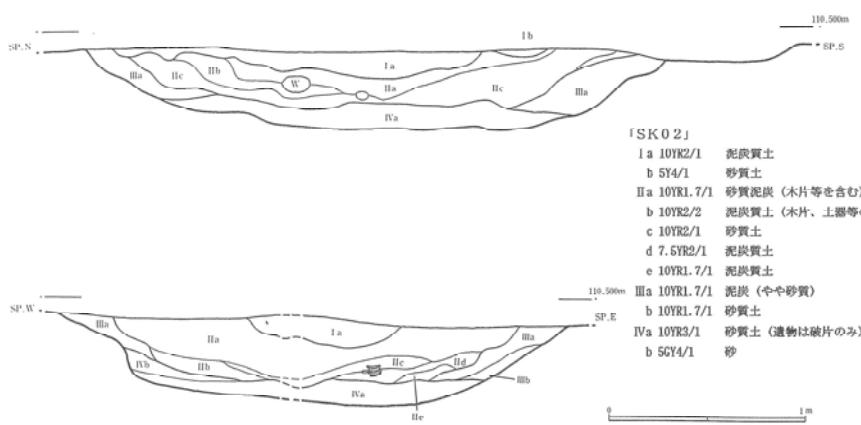
小規模で不整形な土壙で、調査区の北部中央付近に位置し、ここからSD04が西に向かって派生している。

ここからはあかやき土器を中心に出土したが、図化できたものは2点(No. 1003, 1005)にとどまる。またNo. 1007, 1008は遺構外として取り上げたが、いずれもこの土壙から出土した可能性がある。No.1007は墨書(「又」)、No.1008は内黒土師器である。

(g) SK07 (1.00m × 0.80m × 0.20m)

SD02と03の交点の南側に位置する不整楕円形の土壙で、東端に柱穴がある。

ここからはあかやき土器(No. 1004, 1009~1012)と須恵器(No.150, 168)が出土した。



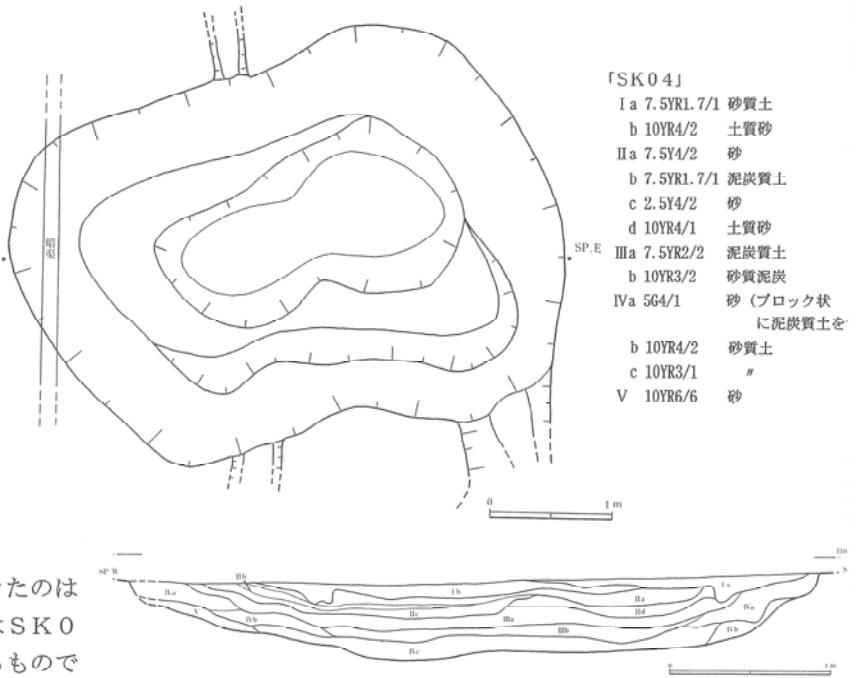
第4図 SK02 平面図・セクション図

## ②溝跡

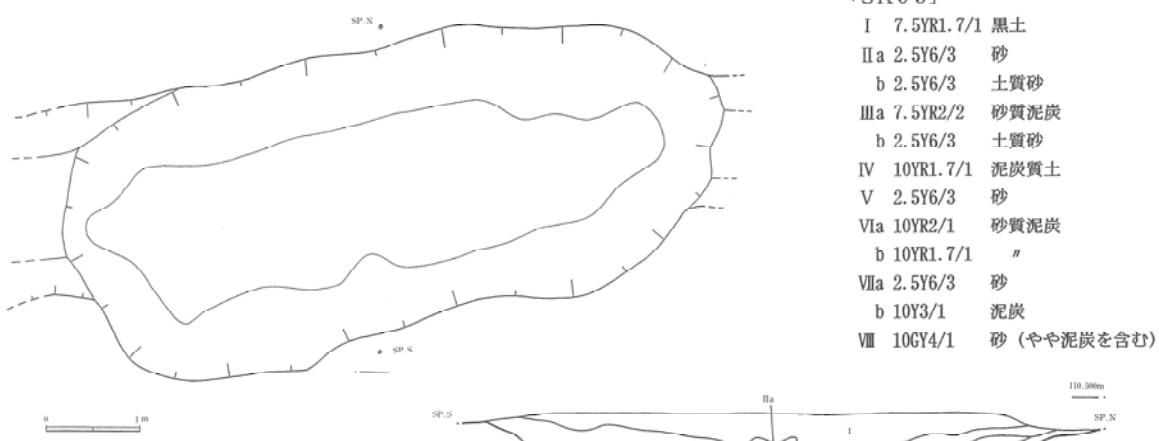
溝跡は4本を確認している。SD01は他の3本に比べ幅が広く、調査区南側を東西に走り西端はSK05に連結する。また2本の溝で北側のSK04に連結する。SD02は調査区外北側から南下しSK04に達し、結果的にSD01に連結する。SD03はSD02の中ほどから派生し西へ延び、途中南に折れ、SK03、SK01と連結する。SD04はSK07から派生し、西に延びて調査区外へと続く。遺物はあかやき土器などが出土したが数は少ない。

## ③柱穴

柱穴は合わせて約170ほど検出されたが、調査区の北半側に片寄り、南半側からは検出されなかつた。この中で建物を構成できたのは東西1間、南北2間の1棟にとどまる。これはSK03の北側、南下するSD02の西側に位置するものである。



第5図 SK04 平面図・セクション図



第6図 SK05 平面図・セクション図

## (2)取付道地点

ここでは農道を挟んで4×4mと10×2mの2ヵ所のトレンチを設定、必要に応じて調査区を拡張しながら調査を実施した。その結果、調査範囲は4×4m、8×2m、8×6mの計約80m<sup>2</sup>となった。

基本的な層序は、I耕土、II褐色土、III黑色土(遺物包含層)、IV砂層(地山)であるが、IV層から重機の痕跡が現われ、耕地整理による影響が明らかになった。また、まとまった遺物の出土もなかつた。

#### IV まとめ

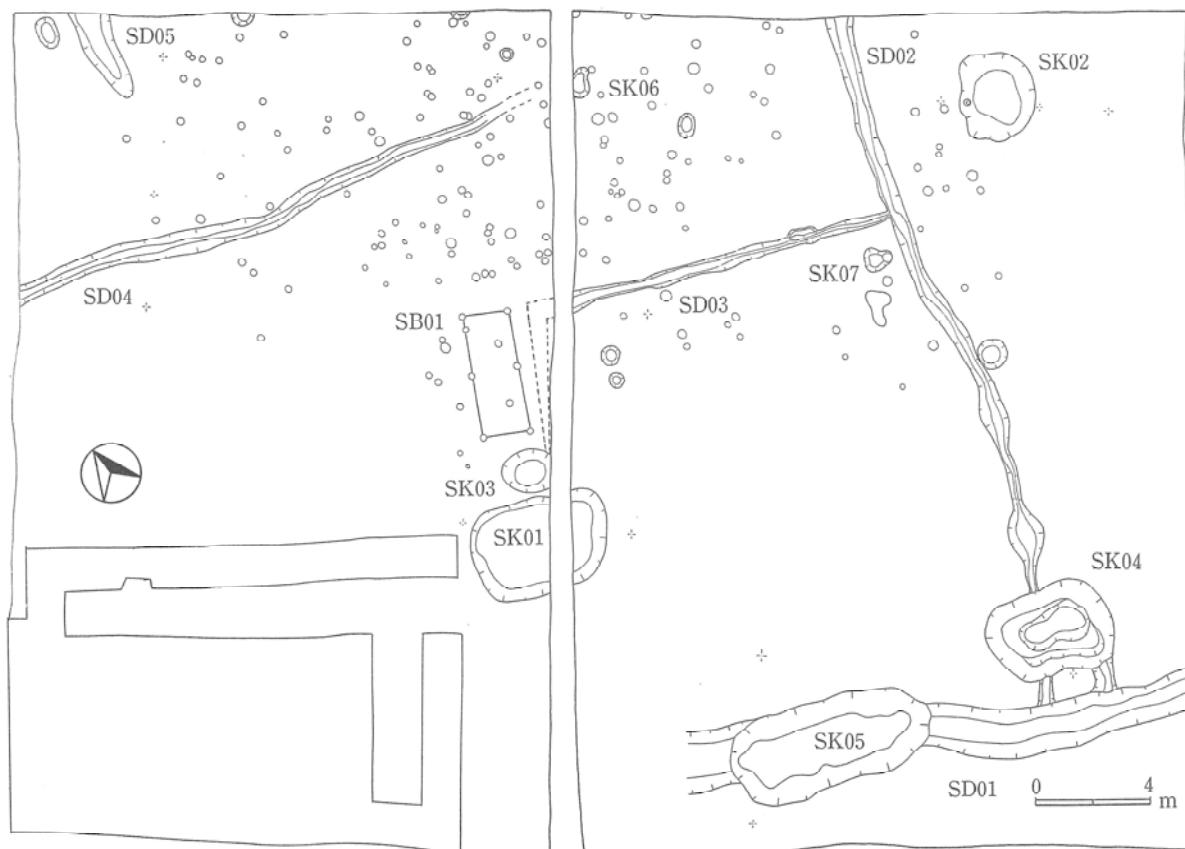
遺跡は旧馬見ヶ崎川の自然堤防上にあり、北から南東から西に傾斜する地形となっている。そのため調査地点は遺跡の南西部の一番低い部分にある。

今回の調査により検出した遺構は、土壙、溝跡および無数の柱穴などである。柱穴から建物を構成できたのは1棟にとどまる。また今回の調査では、竪穴等の住居跡は検出されていない。

土壙および溝跡の配置には、機能的なつながりがある。特にSK02以外の各土壙はいずれも溝と連結し、どれも最終的にはSD01にたどりつく。また溝には、それぞれ平行あるいは直行し、SB01が溝に平行する位置にあることなどから、区画的な役割があったものと考えられる。今回の調査で竪穴住居等の遺構が確認できなかったことについては、当遺跡の住居域が北および東側のより高い位置に設けられたためと考えられ、土器破片がかなり広範囲に散布していたことからも、水田耕作などにより大きく破壊されてしまったものと思われる。

出土した遺物はあかやき土器を中心で、ほかに須恵器、内黒土師器、木製品など遺物整理箱にして約30ケースほどである。しかしその内の約5割については包含層から細かな破片で出土した土器で、遺跡が水田等の耕作の影響を受け大きく破壊されていることを示していた。残りの遺物については、ほとんどが土壙から出土したものである。

土壙から出土した遺物のうち、土器類ではあかやき土器が全体の約80%をしめ、約15%が内黒土師器である。須恵器では、甕類を除くと壺類の数はごく少量の出土にとどまり、遺構から出土したものはほとんどない。



第7図 A地点 平面図

出土した壺類の内、あかやき土器16点に墨書が確認された。その他内黒土師器と須恵器でそれぞれ1点を確認している。確認できた墨書のうち、「又」と判読されるものが最も多くて18点中11点であった。ほかには「中」「門」と判読できそうなものがある。

あかやき土器の壺は、その口径と器高から大、小型に2分類される。小型の壺の口径と器高の平均値はそれぞれ10.9cm、3.2cmで、口径は±0.6mmの範囲におさまる。大型のものはそれぞれ13.2cm、4.5cmで、高台壺も身の部分については大型の壺の平均値に近い。

その他の遺物では木製品、砥石、土錐、轍の口などがある。特に木製品は、木槌と敲き台のセットや薦石など薦細工用途と考えられるものが多く出土した。また他に、装飾的に削りだされた縦櫛や漆塗の沓（片方のみ）などがある。

ほとんどの遺物は、SK01～05の土壙から出土しているが、出土した遺物の内容についてそれぞれが特徴的な様相を示す。例えば木製品に関しては、SK02、SK05から質量ともに多く出土し、他の土壙からの出土量は極端に少ない。さらにSK02からはあかやき高台壺の底部片が集中的に出土している。またSK03、04では、どちらもあかやきの小型壺の出土がなく、しかも墨書「又」のほとんどがここに集中している。これに対し、あかやきの小型壺はSK05から集中して出土している。

「出土遺物一覧」

No.	器種	種別	色調(外面)	備考
<b>SK01</b>				
1	壺	あかやき	7.5YR8/3	胎土に砂粒が目立つ。やや硬質 口縁部径 : 14.0 底部径 : 5.0 器高 : 4.1
2	壺	あかやき	10YR7/3	口縁部径 : 12.7 底部径 : 4.9 器高 : 4.1
3	壺	あかやき	7.5YR6/3	口縁部径 : 12.7 底部径 : 4.6 器高 : 3.9
4	壺	あかやき	7.5YR7/2	胎土に砂粒が目立つ。やや硬質 口縁部径 : 14.4 底部径 : 6.0 器高 : 4.2
5	高台壺	内黒土師器	7.5YR6/4	ロクロ・糸切り 口縁部径 : 16.3 高台部径 : 7.1 器高 : 6.5
6	壺	あかやき	7.5YR6/3	やや硬質 口縁部径 : 12.2 底部径 : 5.2 器高 : 4.2
7	高台壺	あかやき	7.5YR7/3	口縁部径 : 17.3 高台部径 : 8.1 器高 : 6.7
8	壺	あかやき	10YR6/3	胎土が砂質でやや脆い。 口縁部径 : 12.3 底部径 : 5.0 器高 : 3.9
9	壺	あかやき	7.5YR7/3	胎土に砂粒が目立つ。やや硬質 口縁部径 : 14.1 底部径 : 5.1 器高 : 4.2
10	壺	あかやき	5YR6/3	完形 口縁部径 : 12.5 底部径 : 5.1 器高 : 4.3
11	壺	あかやき	10YR7/3	口縁部径 : 12.0 底部径 : 4.3 器高 : 4.1
12	壺(小型)	あかやき	7.5YR7/3	胎土に砂粒が目立つ。やや硬質 口縁部径 : 11.0 底部径 : 4.1 器高 : 2.6
13	壺(小型)	あかやき	10YR6/3	口縁部径 : 10.9 底部径 : 4.1 器高 : 3.4
14	壺(小型)	あかやき	10YR7/2	口縁部径 : 10.7 底部径 : 4.0 器高 : 3.2
15	高台壺	あかやき	10YR6/4	口縁部径 : 14.3 高台部径 : 7.3 器高 : 4.7
16	高台壺	あかやき	7.5YR6/3	口縁部径 : 14.3 高台部径 : 6.5 器高 : 5.8
17	高台壺	あかやき	7.5YR6/4	口縁部径 : 14.2 高台部径 : 6.3 器高 : 5.8
18	高台壺(小型)	内黒土師器	7.5YR7/3	ロクロ・糸切り、墨書「中」 口縁部径 : 11.5 高台部径 : 5.8 器高 : 4.6
19	高台壺	あかやき	10YR5/3	胎土が砂質でやや脆い。 口縁部径 : 14.4 高台部径 : 7.3 器高 : 6.1
20	高台壺	内黒土師器		ロクロ・糸切り 口縁部径 : 14.3 高台部径 : 7.0
21	高台碗	内黒土師器	10YR6/3	ロクロ・ヘラ切り。外面底部ヘラケズリ、および体部上半横ミガキ 口縁部径 : 14.7 高台部径 : 7.8 器高 : 7.2
22	壺(小型)	あかやき	7.5YR5/3	内面に煤が付着(灯明皿か?) 口縁部径 : 10.7 底部径 : 4.8 器高 : 3.2
23	壺(小型)	あかやき	7.5YR7/4	口縁部径 : 14.4 底部径 : 5.8 器高 : 4.1
133	壺	あかやき	7.5YR8/3	胎土に砂粒がめだつ 口縁部径 : 10.9 底部径 : 4.1 器高 : 3.1
166	壺	須恵器		頸部径 : 13.8 底部径 : 13.3 最大径 : 30.3
304	土錐		5Y5/1	長さ47mm、最大径20mm、内径5mm。繩の痕跡が認められる。
801	棒状木製品			長さ260mm、直径14~17mm。中央が凹み、細くなった先端は一部炭化している。
802	薦石			長さ130mm、直径22~45mm。鼓状の形態で、削りの痕跡が認められる。
803	杳(木製)			長さ227mm、高さ62mm、幅135mm。1/2の芯材を使用、内側を割りぬいて成形。全体に漆が塗布され、修復用の穴がある。
<b>SK02</b>				
24	高台壺	あかやき	7.5YR5/3	やや硬質 口縁部径 : 14.1 底部径 : 6.4 器高 : 5.1
25	壺	あかやき	7.5YR8/2	胎土にやや砂粒が目立つ。やや硬質 口縁部径 : 11.9 底部径 : 4.0 器高 : 3.7
26	壺(小型)	あかやき	10YR6/1	器壁が薄い 口縁部径 : 9.8 底部径 : 3.7 器高 : 2.9
27	壺(小型)	あかやき	10YR6/2	内面がなめらかに処理され、口縁部は横ナデ/体部が「く」字状に成形される。 口縁部径 : 10.4 底部径 : 4.4 器高 : 3.0
28	壺(小型)	あかやき	10YR4/2	内面がなめらかに処理され、口縁部は横ナデ。やや煤が付着するか?/体部が「く」字状に成形される。 口径部径 : 10.6 底部径 : 4.4 器高 : 3.9
29	壺	あかやき	5YR6/4	胎土にやや砂粒が目立つ。やや硬質 口径部径 : 11.3 底部径 : 3.6 器高 : 3.4
30	高台壺	あかやき	5YR6/4	口径部径 : 14.9 高台部径 : 7.5 器高 : 5.9
31	壺(小型)	あかやき	10YR6/2	口縁部径 : 11.2 底部径 : 4.3 器高 : 2.9
32	壺(小型)	あかやき	7.5YR6/3	口縁部径 : 10.7 底部径 : 3.7 器高 : 3.1
33	壺	あかやき	7.5YR6/2	胎土にやや砂粒が目立つ。やや硬質 口縁部径 : 14.1 底部径 : 6.1 器高 : 4.3
34	壺	あかやき	10YR7/3	墨書(不明)、底部がやや張り出す。 口縁部径 : 13.2 底部径 : 5.0 器高 : 5.0
35	高台碗	内外黒土師		口縁部径 : 10.5 高台部径 : 6.0 器高 : 4.4
36	高台壺	あかやき	7.5YR6/6	口縁部径 : 13.4 高台部径 : 6.5 器高 : 4.2
37	壺	あかやき	7.5YR7/3	胎土にやや砂粒が目立つ。 口縁部径 : 11.4 底部径 : 4.9 器高 : 3.6
38	壺(小型)	あかやき	10YR6/2	口縁部径 : 10.3 底部径 : 4.1 器高 : 2.8
39	壺(小型)	あかやき	10YR6/3	やや硬質、内面に煤の痕跡(灯明皿?) 口縁部径 : 10.7 底部径 : 4.2 器高 : 3.3
40	壺(小型)	あかやき	7.5YR7/3	胎土にやや砂粒が目立つ。やや硬質 口縁部径 : 10.7 底部径 : 4.6 器高 : 2.7
41	壺	あかやき	5YR5/6	口縁部径 : 11.5 底部径 : 4.4 器高 : 3.7
42	高台壺	あかやき	5YR5/3	

4 3	高台坏(底部)	あかやき	10YR4/3	やや硬質	高台部径 : 7.9
4 4	高台坏(底部)	あかやき	7.5YR6/3		高台部径 : 6.7
4 5	高台坏(底部)	あかやき	10YR5/2		高台部径 : 6.9
4 6	高台坏(底部)	あかやき	10YR8/3	胎土にやや砂粒が目立つ。やや硬質	高台部径 : 6.4
4 7	高台坏	内外黒土師			
4 8	高台坏(底部)	内外黒土師			高台部径 : 8.1
4 9	高台坏(底部)	内外黒土師			高台部径 : 6.4
5 0	坏	内黒土師器	10YR5/3	底部がヘラナデ	底部径 : 4.9
5 1					
5 2					
5 3	高台坏(底部)	あかやき			
5 4	高台坏(底部)	内黒土師器			
5 5	高台坏(底部)	あかやき			
5 6					
5 7					
5 8					
5 9	高台坏(底部)	あかやき			
6 0	高台坏(底部)	あかやき			
6 1	高台坏(底部)	あかやき			
6 2	高台坏(底部)	あかやき			
6 3	高台坏(底部)	あかやき			
6 4	高台坏(底部)	内黒土師器			
6 5	高台坏(底部)	あかやき			
6 6	高台坏(底部)	内黒土師器			高台部径 : 8.1
6 7	高台坏(底部)	あかやき			
6 8					
6 9					
7 0					
7 1	高台坏(底部)	あかやき			
7 2	高台坏(底部)	あかやき			
7 3	高台坏(底部)	あかやき			
7 4					
7 5					
7 6	高台坏(底部)	あかやき		底部中央に穿穴（径約 1 cm）、高台部にも 3 カ所の穿穴。底部外面はヘラケズリ、高台部は横ナデ。	
601		漆 器		底部および体部の破片	
804	角 材			長さ 246mm (残存部)、幅 39mm、高さ 23mm。片端にほぞが削り出される。一部炭化。	
805	木 槌			長さ 363mm、最大径 75mm、最小径 33mm。握りを含め全体が丸いが、一部平な部分では、無数の金属（刃物）の痕跡が認められる。	
806	曲 物			長さ 104mm、幅 73mm (残存部)、厚さ 2.5mm。輪留めの金具が 1 カ所残存する。	
807	曲 物			直径 132mm、厚さ 6mm。	
808	薦 石?			長さ 121mm、幅 67mm、高さ 37mm。成形による削り痕が認められる。	
809	角 材			長さ 233mm (残存部)、14mm 角。片端にほぞを削り出してある。	
810	部 材			長さ 293mm (残存部)、幅 31mm、厚さ 13mm。先端が丸く成形されるが炭化している。また中央部に 3 カ所の穴（径 3~5mm）が斜め方向に穿たれる。	

### SK 0 3

1006	坏	あかやき	10YR6/3	墨書「又」	口縁部径 : 15.1 高台部径 : 6.7 器高 : 6.6
1013	坏	あかやき	7.5YR7/4	墨書「又」	口縁部径 : 13.2 底部径 : 5.2 器高 : 5.0
1014	坏	あかやき	7.5YR7/3	底部に小石（φ 1.5cm）が混入。	口縁部径 : 13.7 底部径 : 5.0 器高 : 4.9
1015	坏	あかやき	10YR5/4	墨書（不明）	底部径 : 4.8
1016	坏	あかやき	5YR5/6	墨書「又」	口縁部径 : 12.7 底部径 : 4.7 器高 : 5.0

## SK 0 4

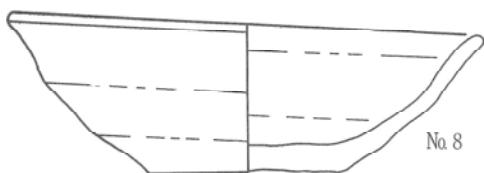
7 7	高台坏	あかやき	7. 5YR5/4	胎土がなめらかでやや硬質	口縁部径 : 13. 2 高台部径 : 5. 3 器高 : 5. 7
7 8	坏	あかやき	7. 5YR6/3	やや硬質	口縁部径 : 12. 7 底部径 : 4. 4 器高 : 5. 0
7 9	坏	あかやき	5YR7/4	底部がやや張り出す、やや硬質 (完形)	口縁部径 : 12. 4 底部径 : 4. 2 器高 : 4. 9
8 0	坏	あかやき	7. 5YR4/2	底部がやや張り出す、硬質	口縁部径 : 12. 7 底部径 : 4. 1 器高 : 4. 4
8 1	坏	あかやき	10YR6/3	墨書「又」	口縁部径 : 12. 7 底部径 : 4. 9 器高 : 4. 6
8 2	高台坏	内黒土師器	10YR5/3		口縁部径 : 15. 5 高台部径 : 7. 3 器高 : 6. 6
8 3	坏	あかやき	10YR6/3	墨書「又」	口縁部径 : 13. 6 底部径 : 5. 1 器高 : 5. 3
8 4	坏	あかやき	10YR4/3	胎土がなめらかでやや硬質	口縁部径 : 12. 9 底部径 : 4. 6 器高 : 4. 6
8 5	坏	あかやき	7. 5YR7/3	墨書「又」、硬質	口縁部径 : 12. 2 底部径 : 5. 0 器高 : 4. 4
8 6	坏	あかやき	10YR4/3	硬質	口縁部径 : 12. 4 底部径 : 4. 9 器高 : 4. 7
8 7	坏	あかやき	7. 5YR4/3	墨書「又」、胎土がなめらかでやや硬質	口縁部径 : 12. 9 底部径 : 4. 8 器高 : 4. 2
8 8	坏	あかやき	10YR5/2	硬質、底部が大きく張り出す	口縁部径 : 12. 7 高台部径 : 5. 2 器高 : 5. 0
8 9	高台坏	あかやき	10YR6/3	体部の立ち上がりが急で、口縁付近がやや「く」字状に外反する	口縁部径 : 13. 2 高台部径 : 7. 1 器高 : 6. 1
9 0	高台坏(大型)	あかやき	7. 5YR5/4	墨書「又」	口縁部径 : 16. 6 高台部径 : 8. 2 器高 : 7. 2
9 1	高台坏	あかやき	10YR5/3	体部の立ち上がりが急で、口縁付近がやや「く」字状に外反する	口縁部径 : 12. 8 高台部径 : 6. 8 器高 : 6. 1
9 2	坏	あかやき	10YR6/3		口縁部径 : 12. 9 底部径 : 4. 9 器高 : 5. 0
9 3	坏	あかやき	10YR4/3	器壁が薄いが、やや硬質。口縁部内面が膨らみをもつ	口縁部径 : 12. 5 底部径 : 4. 4 器高 : 4. 6
9 4	高台坏	内黒土師器	10YR5/4	高台が低い	口縁部径 : 11. 7 高台部径 : 5. 9 器高 : 4. 5
9 5	高台坏	内黒土師器	10YR5/3		口縁部径 : 14. 2 高台部径 : 6. 6 器高 : 6. 3
9 6	高台坏	内黒土師器	10YR5/2		口縁部径 : 14. 0 高台部径 : 6. 4 器高 : 5. 9
9 7	坏	あかやき	10YR6/3		口縁部径 : 12. 6 底部径 : 5. 7 器高 : 4. 7
9 8	坏	あかやき	7. 5YR7/4	やや硬質	口縁部径 : 11. 6 底部径 : 4. 7 器高 : 5. 4
9 9	坏	あかやき	10YR6/3		口縁部径 : 11. 7 底部径 : 5. 2 器高 : 4. 5
100	坏	あかやき	10YR6/3	墨書「又」、やや硬質	口縁部径 : 13. 3 底部径 : 4. 7 器高 : 4. 9
101	坏	あかやき	10YR5/3	墨書「又」	口縁部径 : 12. 3 底部径 : 4. 9 器高 : 4. 7
102	坏	あかやき	10YR6/3	やや硬質、外面下半に煤が付着	口縁部径 : 12. 3 底部径 : 4. 8 器高 : 4. 5
103	坏	あかやき	7. 5YR6/4		口縁部径 : 12. 9 底部径 : 4. 8 器高 : 5. 1
104	高台坏	内黒土師器			
134	坏	あかやき	5YR6/6	硬質で須恵器に近い	口縁部径 : 13. 0 底部径 : 4. 4 器高 : 3. 7
811	曲 物			直径930mm、厚さ8mm。	
812	曲物(底部)			長さ360mm、底部直径119mm、厚さ9mm。曲物底部の両側に把手状のものが付き、その4隅に留め金具が残存する。	

## SK 0 5

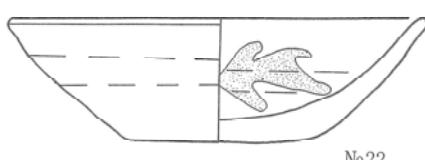
105	高台碗	内外黒土師		口縁部がやや外反する	口縁部径 : 11. 7 高台部径 : 6. 0 器高 : 5. 8
106	坏	あかやき			口縁部径 : 14. 8 底部径 : 5. 8 器高 : 5. 5
107	坏(小型)	あかやき		完形	口縁部径 : 10. 6 底部径 : 4. 7 器高 : 2. 9
108	坏(小型)	あかやき		やや硬質	口縁部径 : 10. 8 底部径 : 3. 7 器高 : 3. 2
109	坏(小型)	あかやき		やや硬質、完形	口縁部径 : 10. 7 底部径 : 3. 7 器高 : 2. 9
110	坏(小型)	あかやき		やや硬質	口縁部径 : 10. 8 底部径 : 4. 8 器高 : 3. 1
111	坏(小型)	あかやき			口縁部径 : 10. 9 底部径 : 3. 5 器高 : 3. 2
112	坏(小型)	あかやき		内面に煤が付着	口縁部径 : 11. 2 底部径 : 4. 3 器高 : 3. 7
113	坏(小型)	あかやき		硬質	口縁部径 : 10. 8 底部径 : 4. 0 器高 : 3. 0
114	坏(小型)	あかやき			口縁部径 : 11. 3 底部径 : 4. 3 器高 : 2. 9
115	坏(小型)	あかやき		内面にすすぐが付着	口縁部径 : 11. 2 底部径 : 3. 8 器高 : 3. 5
116	坏(小型)	あかやき		やや硬質	口縁部径 : 10. 8 底部径 : 4. 1 器高 : 3. 4
117	坏(小型)	あかやき		胎土が砂質でやや脆い。内面に付着物あり。	口縁部径 : 11. 0 底部径 : 5. 5 器高 : 3. 4
118	坏(小型)	(あかやき)		胎土が砂質でやや脆い。	口縁部径 : 11. 5 底部径 : 4. 6 器高 : 3. 7
119	坏(小型)	あかやき		胎土に砂粒がめだつ、やや硬質	口縁部径 : 11. 3 底部径 : 4. 7 器高 : 3. 3
120	坏(小型)	あかやき		やや硬質、内面下半に付着物あり	口縁部径 : 10. 5 底部径 : 5. 0 器高 : 3. 4
121	坏(小型)	あかやき			口縁部径 : 11. 5 底部径 : 4. 3 器高 : 3. 1
122	坏(小型)	あかやき		内面に煤が付着する	口縁部径 : 10. 8 底部径 : 3. 9 器高 : 3. 3
123	坏	あかやき		胎土に砂粒がめだつ	口縁部径 : 14. 0 底部径 : 4. 9 器高 : 4. 1

124	高台坏	あかやき		胎土に砂粒がめだつ	口縁部径 : 13.9 高台部径 : 7.1 器高 : 4.9
125	高台坏?	内黒土師器		SK 01と05出土の破片が接合する	高台部径 : 8.0
126	高台坏	内黒土師器		SK 01と05出土の破片が接合する	口縁部径 : 15.6 高台部径 : 7.9 器高 : 6.5
127	坏?	内黒土師器		胎土がなめらか	口縁部径 : 15.0
128	坏	あかやき		墨書「団」、SK 01と05出土の破片が接合する	口縁部径 : 14.3 底部径 : 5.4 器高 : 4.4
129	坏(小型)	あかやき		胎土に砂粒がめだつ	口縁部径 : 11.3 底部径 : 5.0 器高 : 3.2
130	坏(小型)	あかやき		内外面全体に多量の付着物がある	口縁部径 : 11.1 底部径 : 4.3 器高 : 2.9
131	坏(小型)	あかやき		胎土が砂質	口縁部径 : 10.7 底部径 : 3.9 器高 : 3.4
132	坏(小型)	あかやき			口縁部径 : 11.2 底部径 : 3.9 器高 : 4.0
136	坏	あかやき		墨書「門」か?	底部径 : 5.1
139	坏?	あかやき		墨書(不明)	口縁部径 : 21.7 類部径 : 19.0
301	土錘		5Y5/1	長さ39mm、最大径16mm、内径5mm。	最大胴径 : 23.0
302	土錘			5Y5/1	長さ44mm、最大径16mm、内径5mm。
303	土錘		2.5Y5/1	両端を欠く。最大径14mm、内径5mm。	
813	縦 櫛			長さ220mm、櫛部の幅93mm、柄の幅30mm、歯の長さ(最長66mm、最短33mm)、厚さ7mm。柄の先端が扇状に削り出し成形され、その基部に約3mmの穴が貫通する。また柄の片側に2ヵ所の穴が斜めに貫通する。	
814	曲 物			直径220mm、厚さ7mm。	
815	(用途不明)			長さ263mm、幅33~58.5mm、厚さ30mm。片面に削り加工痕がある。また細くなった先端部には擦ったような痕跡が認められる。	
816	曲 物			直径98mm、厚さ3.5~7mm。中央部がやや薄くなっている。	
817	縦 構			長さ351mm(うち柄部174mm)、径31~77mm。削り加工痕が認められる。また先端部が擦れて丸くなっている。	
818	敲き台			縦122mm、横172mm(いずれも残存部)、高さ32mm。表裏両面に無数の敲打痕がある。	
819	薦 石			長さ128mm、径30~52mm。削り加工痕が認められる。	
820	(木枠)			長さ153mm、幅59mm、厚さ5mm。両端が対称的な形状で、それぞれの凸部に約15mm間隔で穴が貫通する。	
821	下 駄			長さ188mm、幅74mm(いずれも残存部)、厚さ4mm(歯部で17mm)。	
822	曲 物			長さ215mm(残存部)、幅47mm、厚さ4mm。一部炭化している。	
823	木 盆			口径119mm、底径76mm、高さ24mm。	
824	木 盆			口径111mm、底径70mm、高さ24mm。体部に1ヵ所穴が貫通する。	
825	(用途不明)			長さ150mm、幅59mm(いずれも残存部)、厚さ4mm。	
826	櫛			幅61mm(残存部)、高さ39mm(歯の長さ27mm)、厚さ6.5mm。	
<b>SK 06</b>					
1003	坏	あかやき	10YR7/3		口縁部径 : 11.5 底部径 : 4.3 器高 : 4.0
1005	高台坏	あかやき	10YR8/3	胎土に砂粒が目立つ	口縁部径 : 13.8 高台部径 : 6.7 器高 : 5.5
<b>SK 07</b>					
150	壺	須恵器	N4/0	口縁部	口縁部径 : 15.2
168	高台坏(身)	須恵器	N4/0		
1004	坏	あかやき	5YR6/4	やや硬質	口縁部径 : 13.7 底部径 : 4.3 器高 : 4.5
1009	高台坏	あかやき	7.5YR6/3	外面に煤が付着	
1010	高台坏	あかやき	5YR6/4		
1011	坏	あかやき	10YR8/3	口径に対して底径が大きい	口縁部径 : 13.1 底部径 : 6.0 器高 : 4.7
1012	坏	あかやき	7.5YR7/6		口縁部径 : 13.7 底部径 : 4.9 器高 : 4.7

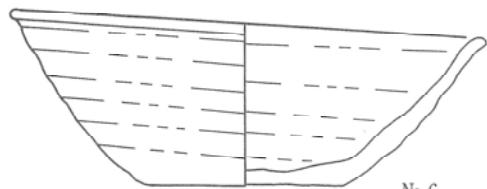
SD 0 2				
135	坏(小型)	あかやき	5YR7/4	口縁部径 : 12.9 底部径 : 4.4 器高 : 3.3
154	蓋	須恵器	7.5Y6/1	つまみを含め、1/12残存。 つまみ径 : 3.4 口径 : 16.9
SD 0 3				
1001	坏	あかやき	7.5YR7/3	口縁部径 : 13.4 底部径 : 4.8 器高 : 4.6
遺構外				
137	壺	あかやき		口縁部および体部上半、外面ヘラナデ（縦） 口縁部径 : 21.7 頸部径 : 19.0
138	甕	あかやき		体部上半、外面ヘラケズリ（縦） 最大胴径 : 23.0
151	坏	須恵器	10Y6/1	口縁部径 : 13.0 底部径 : 7.2 器高 : 3.2
152	坏	須恵器	10Y6/1	底部に墨書（不明） 口縁部径 : 12.4 底部径 : 5.0 器高 : 3.6
153	蓋	須恵器	7.5Y6/1	つまみ部分のみ残存
156	高台坏	須恵器	5B5/1	高台部径 : 6.7
157	蓋	須恵器	10Y6/1	つまみを含む約1/5残存 つまみ径 : 3.8
158	壺	須恵器	7.5Y6/1	頸部のみ残存、一部緑ユウがかかる。 頸部径 : 8.4
160	壺(小型)	須恵器	7.5YR5/1	体部中 上部 頸部径 : 18.2
161	壺	須恵器	7.5Y4/1	頸部・体部上半 口縁部径 : 19.7 頸部径 : 16.2
162	壺	須恵器	5PB5/1	体部上半 最大胴径 : 16.8
163	甕	須恵器	10Y5/1	頸部
164	甕	須恵器	10Y2/1	体部下半
165	(甕)	須恵器	7.5Y6/1	底部
167	蓋	須恵器	N4/0	口径 : 14.6
1201	甕	土師器		内面横ヘラナデ・外面縦刷毛目および下半横ヘラナデ 底部径 : 9.0
305	土錘		2.5Y3/1	
306	土錘		2.5Y2/1	
401	砥石		7.5CY6/1	4面を使用、内1面に溝状の痕跡がある
402	砥石		5B4/1	4面を使用
403	砥石		7/5Y7/1	3面を使用（不定形）
501	轆の口		10Y7/1	先端部分にガラス成分が付着する。
502	轆（導管）		7.5YR6/3	
601	漆器		10YR2/1	破片、底部および体部
701	坏	あかやき	7.5YR7/4	破片、内面に漆が付着する。
702	坏	あかやき	7.5YR4/3	破片、内面に漆が付着、胎土が砂質でもろい。
1002	坏	あかやき		口縁部径 : 12.8 底部径 : 4.5 器高 : 4.2
1007	高台坏	あかやき		口縁部径 : 14.4 高台部径 : 6.2 器高 : 5.9
1008	高台坏	内黒土師器		口縁部径 : 14.7 高台部径 : 6.7 器高 : 6.0



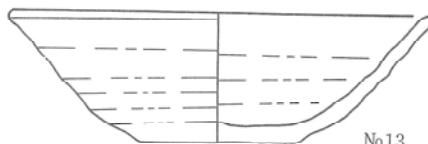
No. 8



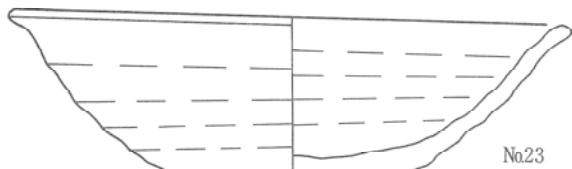
No. 22



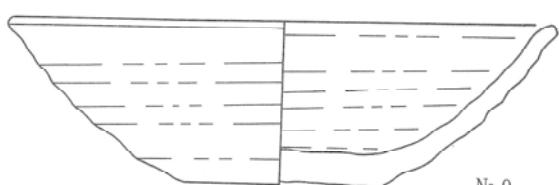
No. 6



No. 13



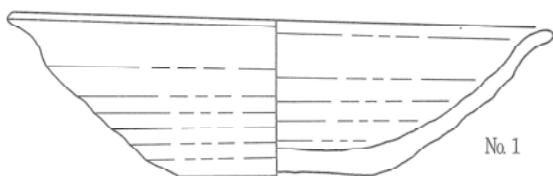
No. 23



No. 9



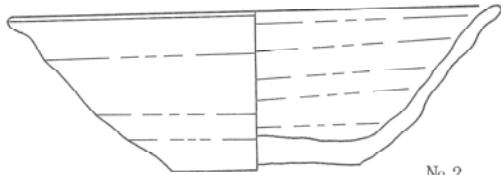
No. 11



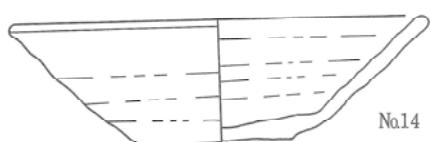
No. 1



No. 3



No. 2



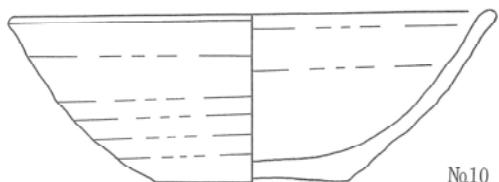
No. 14



No. 4



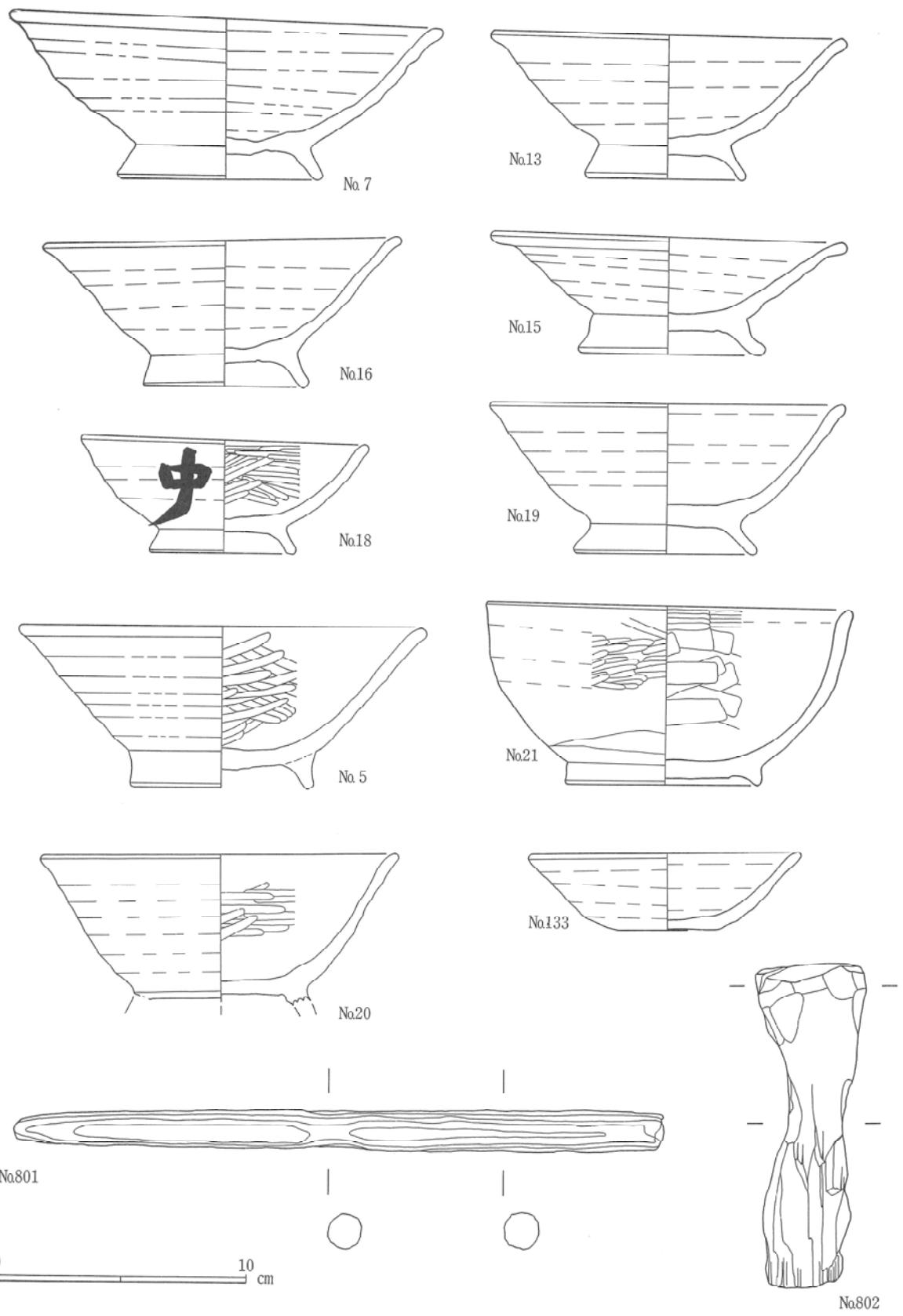
No. 12



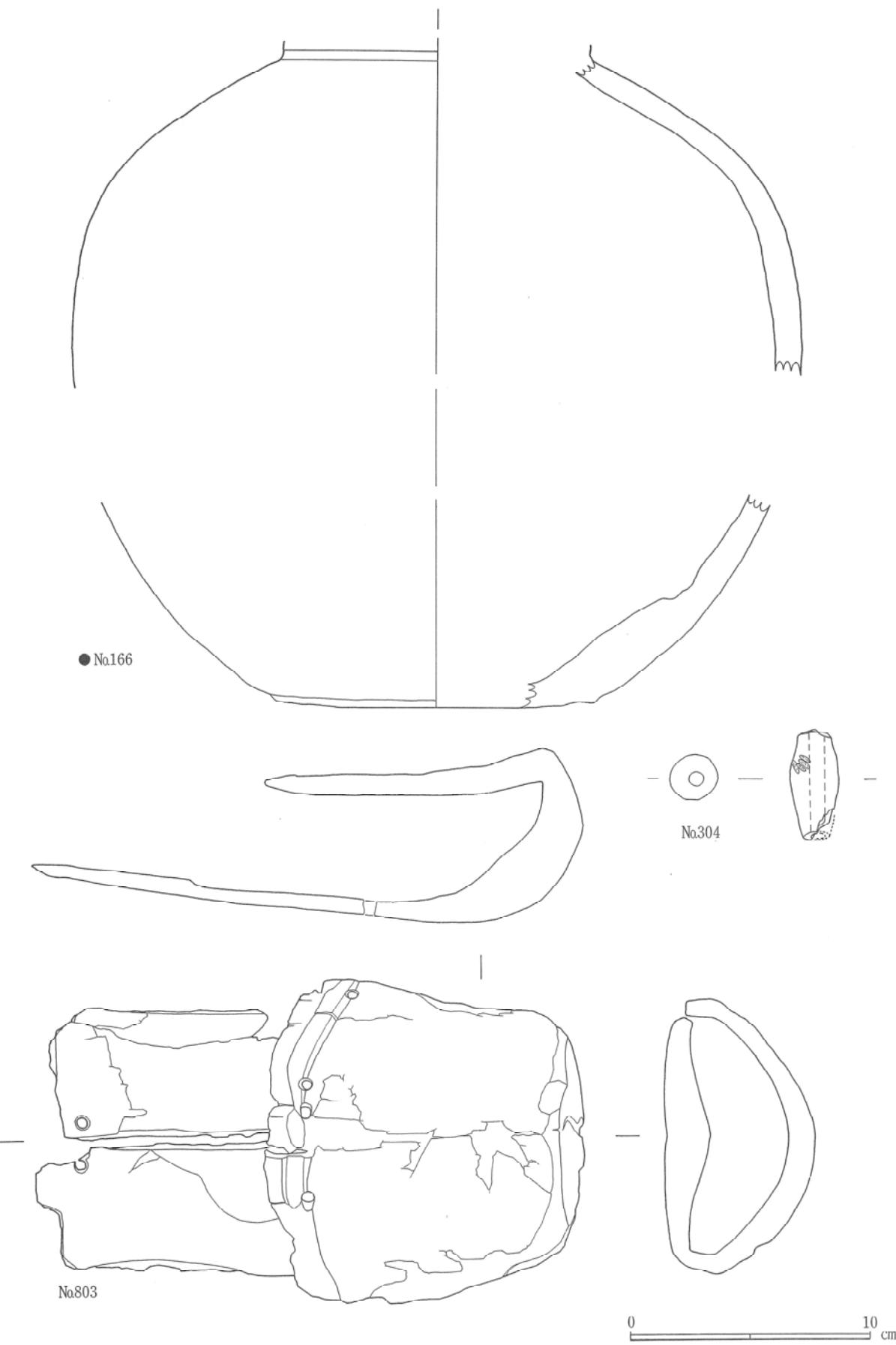
No. 10

SK01 出土遺物(1)-3

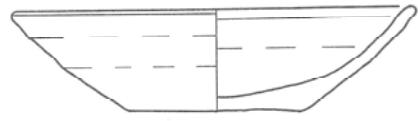
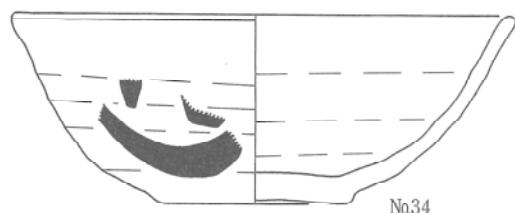
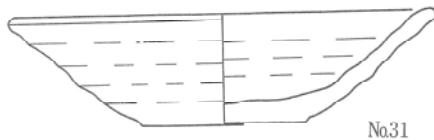
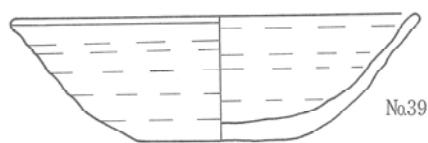
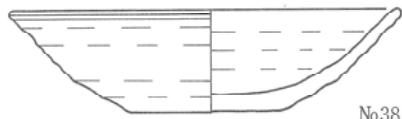
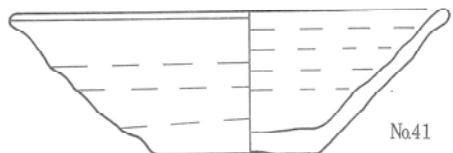
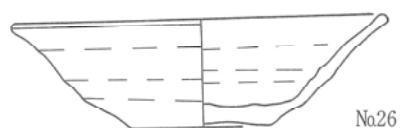
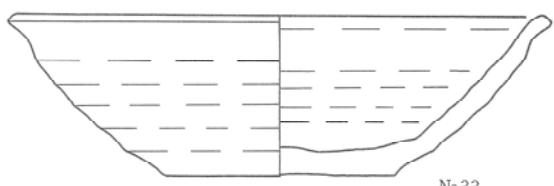
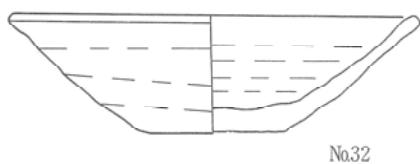
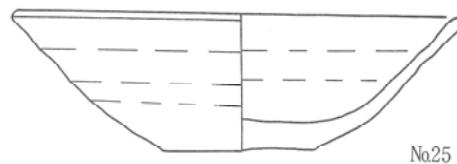
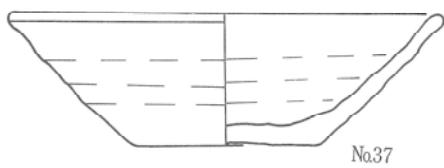
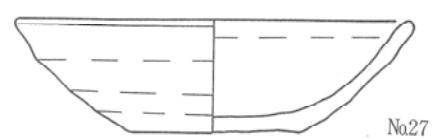
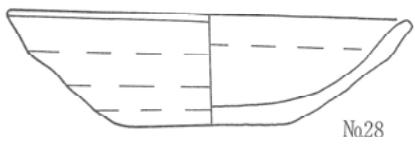
A horizontal scale bar with numerical markings at 0 and 10, followed by the unit "cm".



SK01出土遺物(2)-3

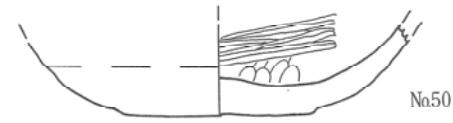
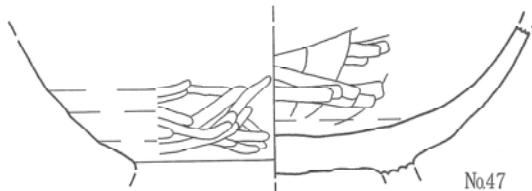
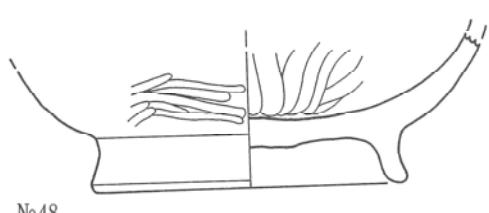
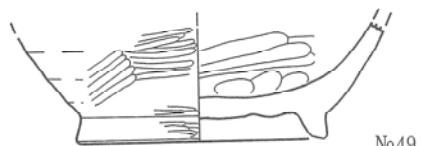
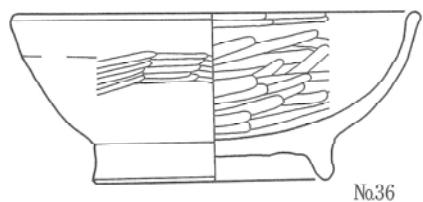
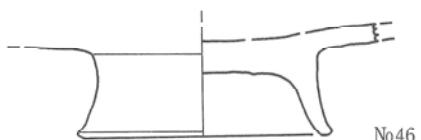
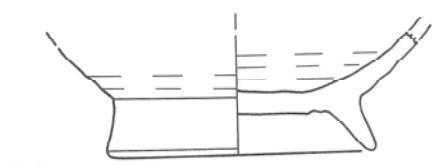
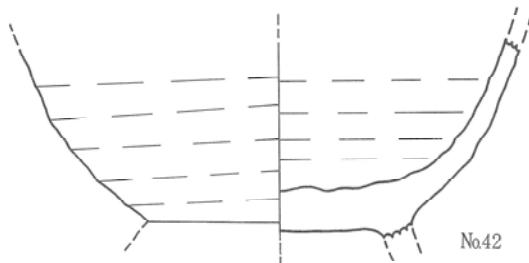
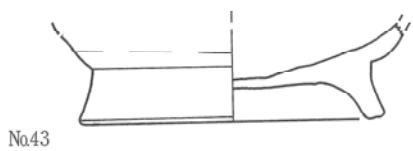
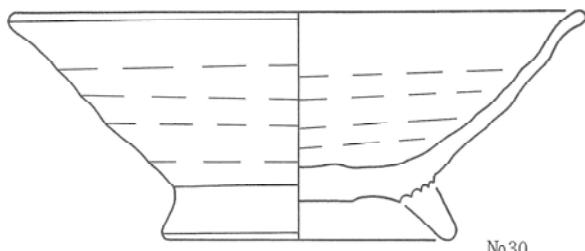
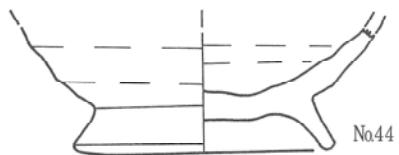
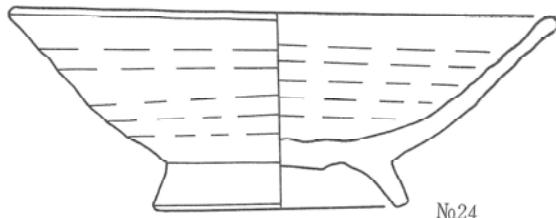
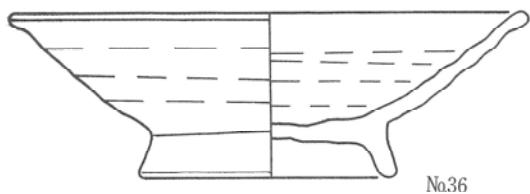


SK01出土遺物(3)-3



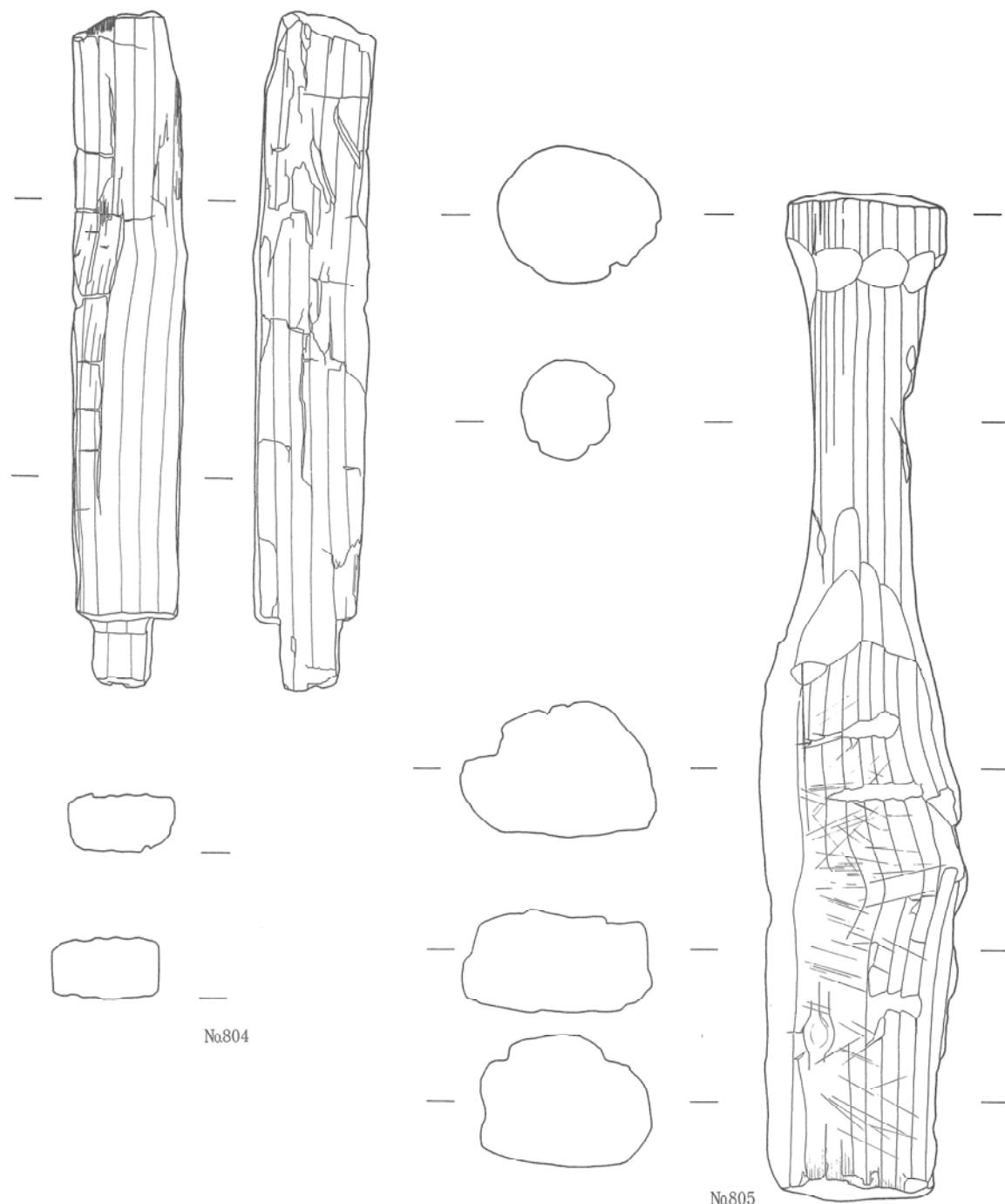
0 10 cm

SK02出土遺物(1)-4



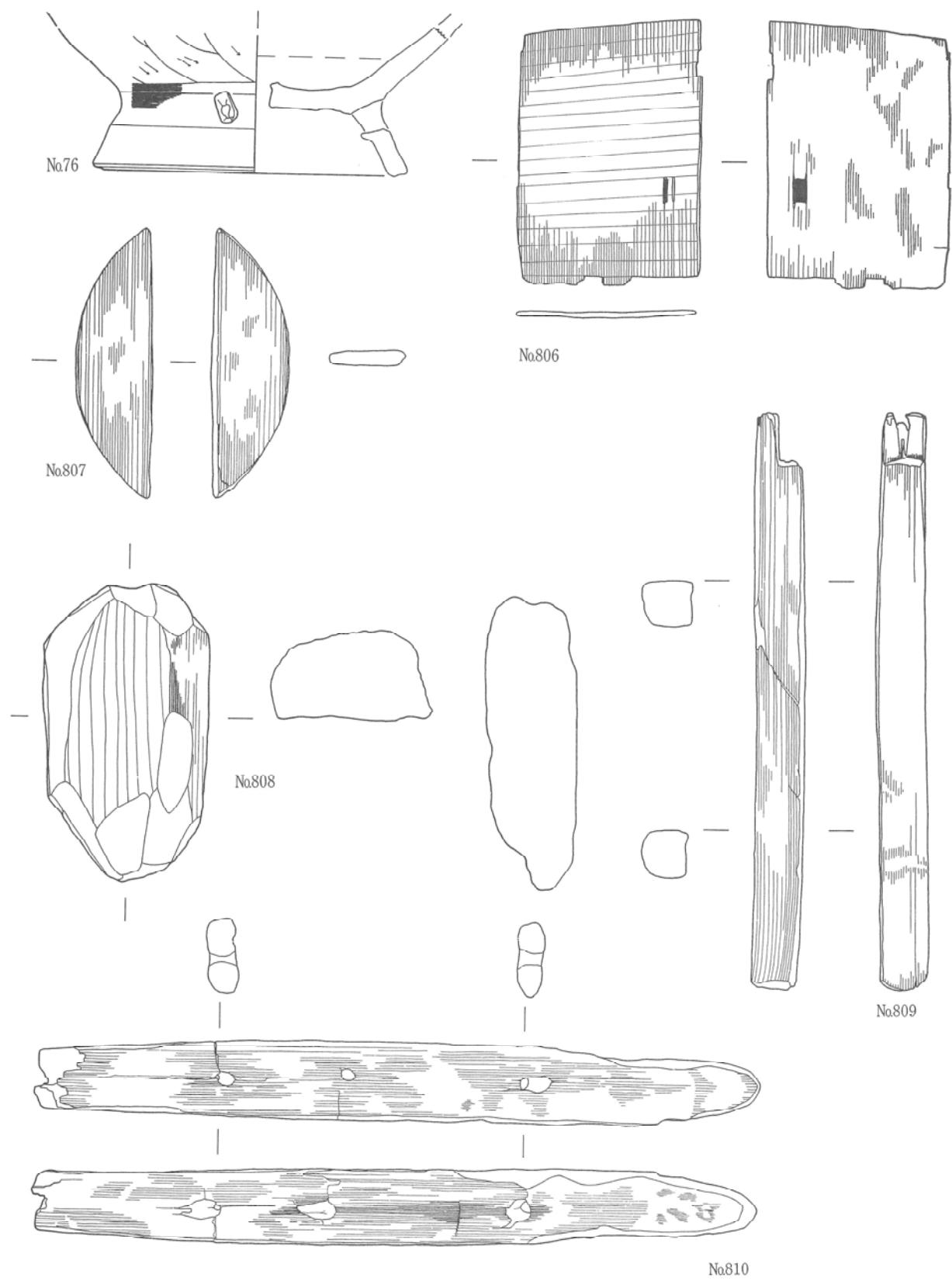
SK02出土遺物(2)-4

0 10 cm



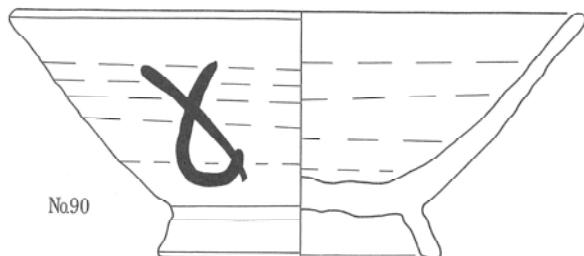
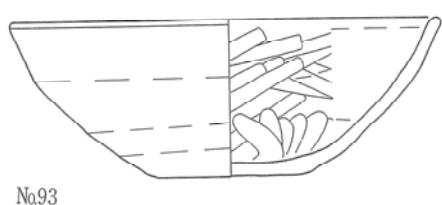
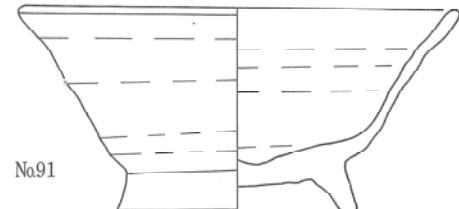
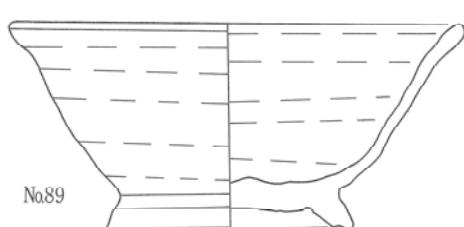
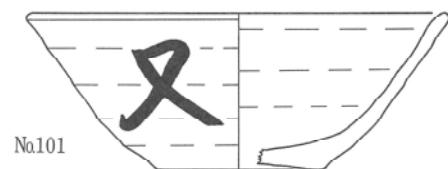
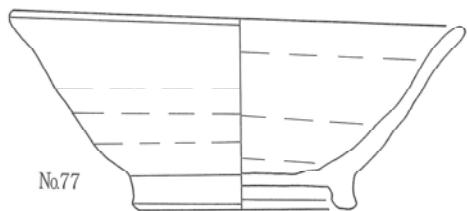
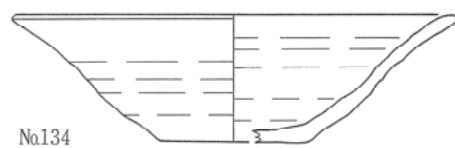
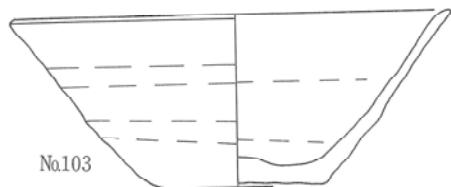
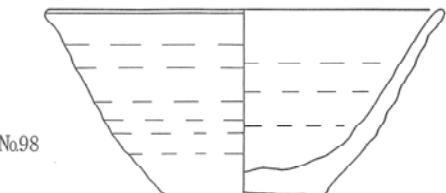
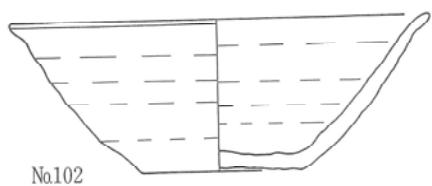
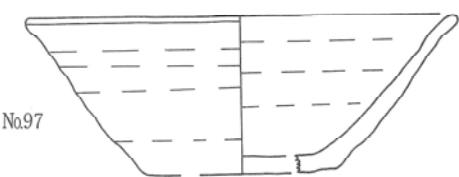
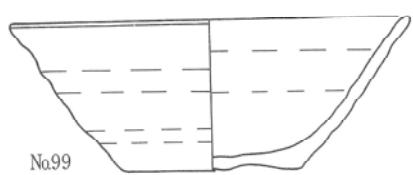
0 10 cm

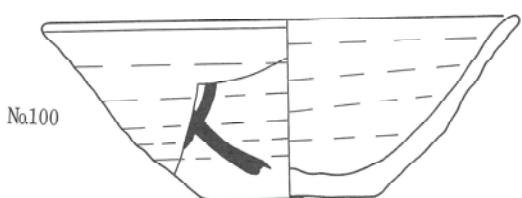
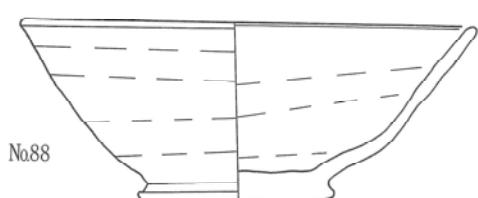
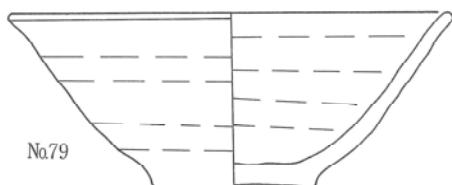
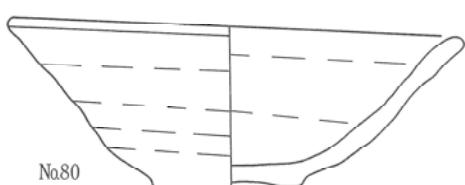
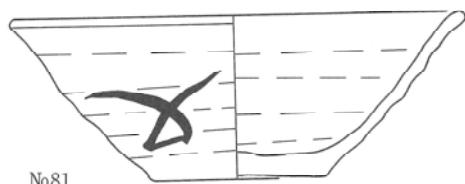
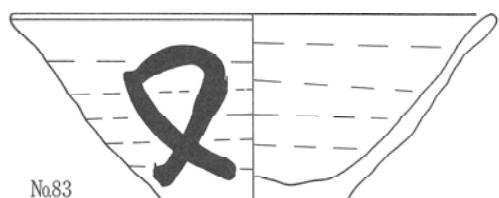
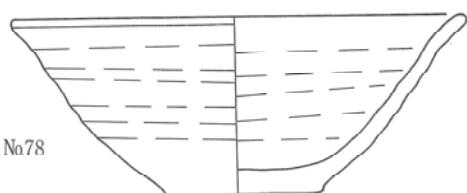
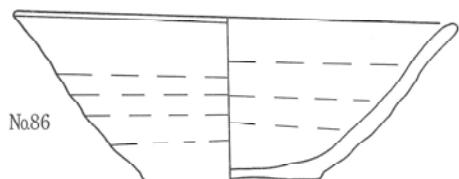
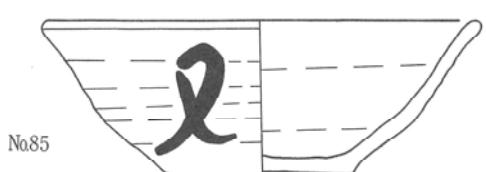
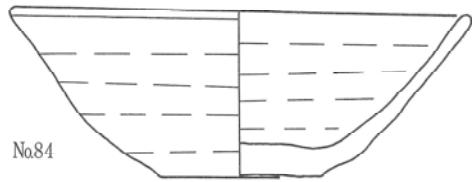
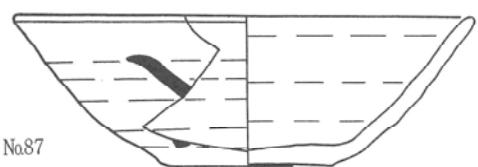
SK02出土遺物(3)-4



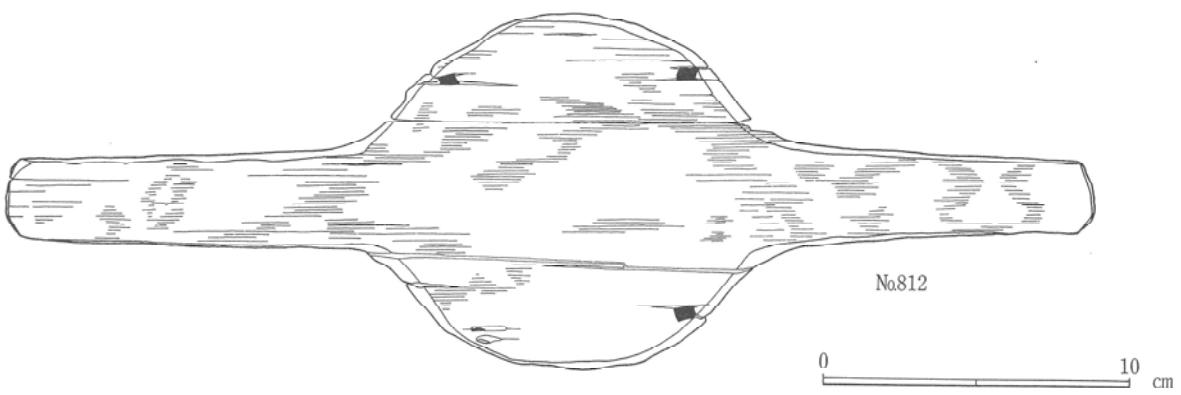
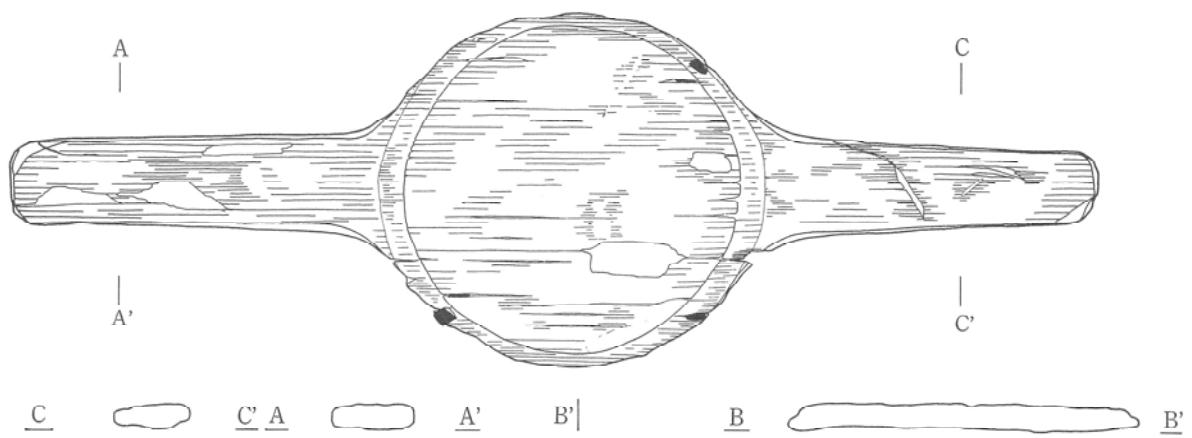
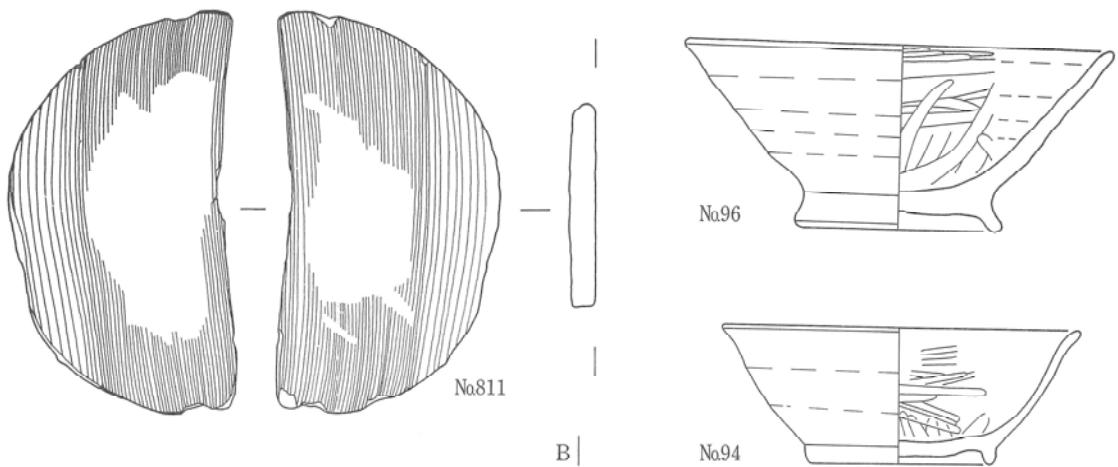
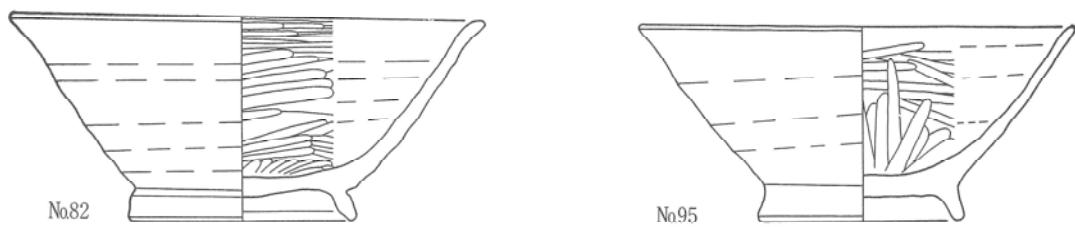
0 10 cm

SK02出土遺物(4)-4

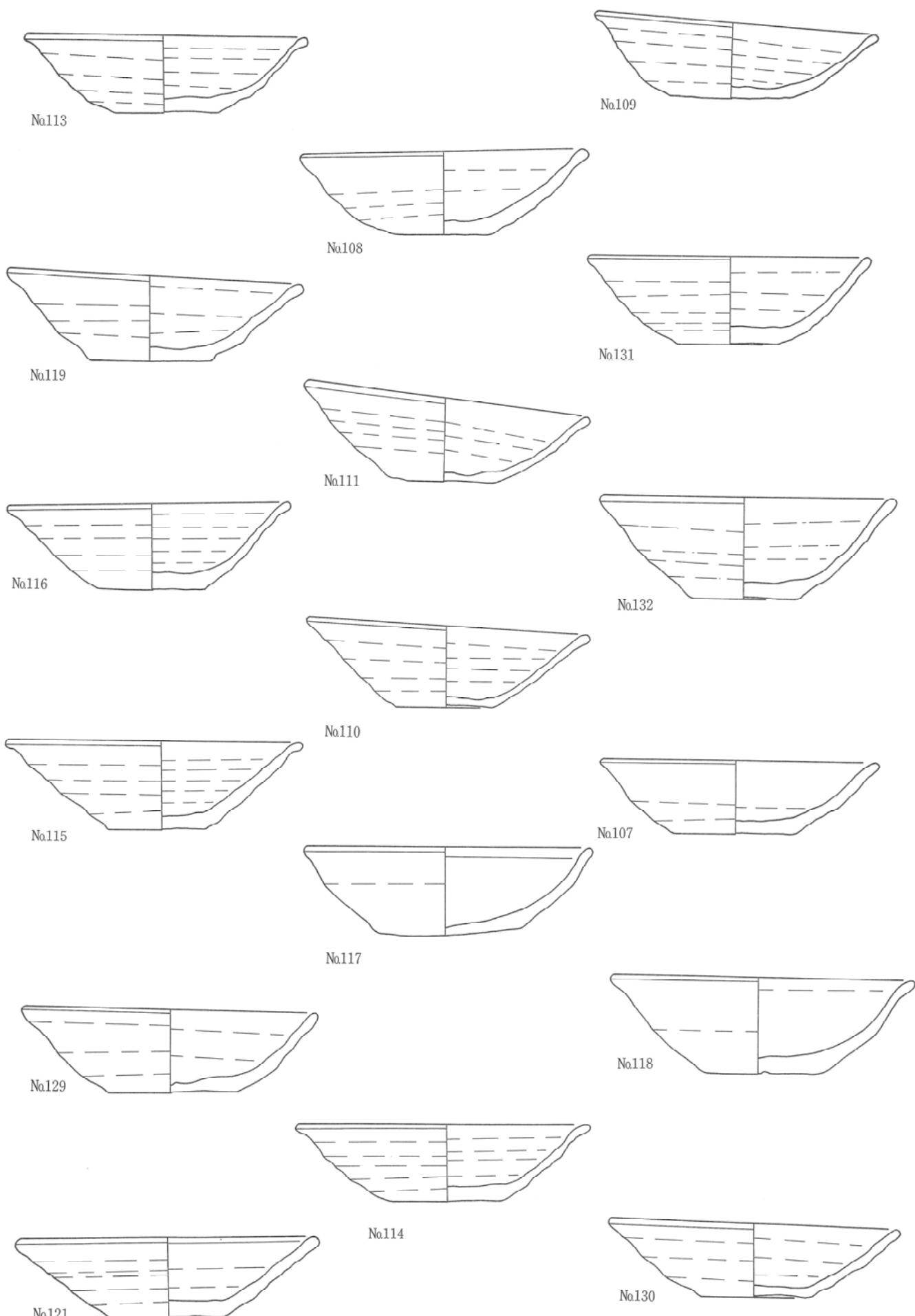




0 10 cm

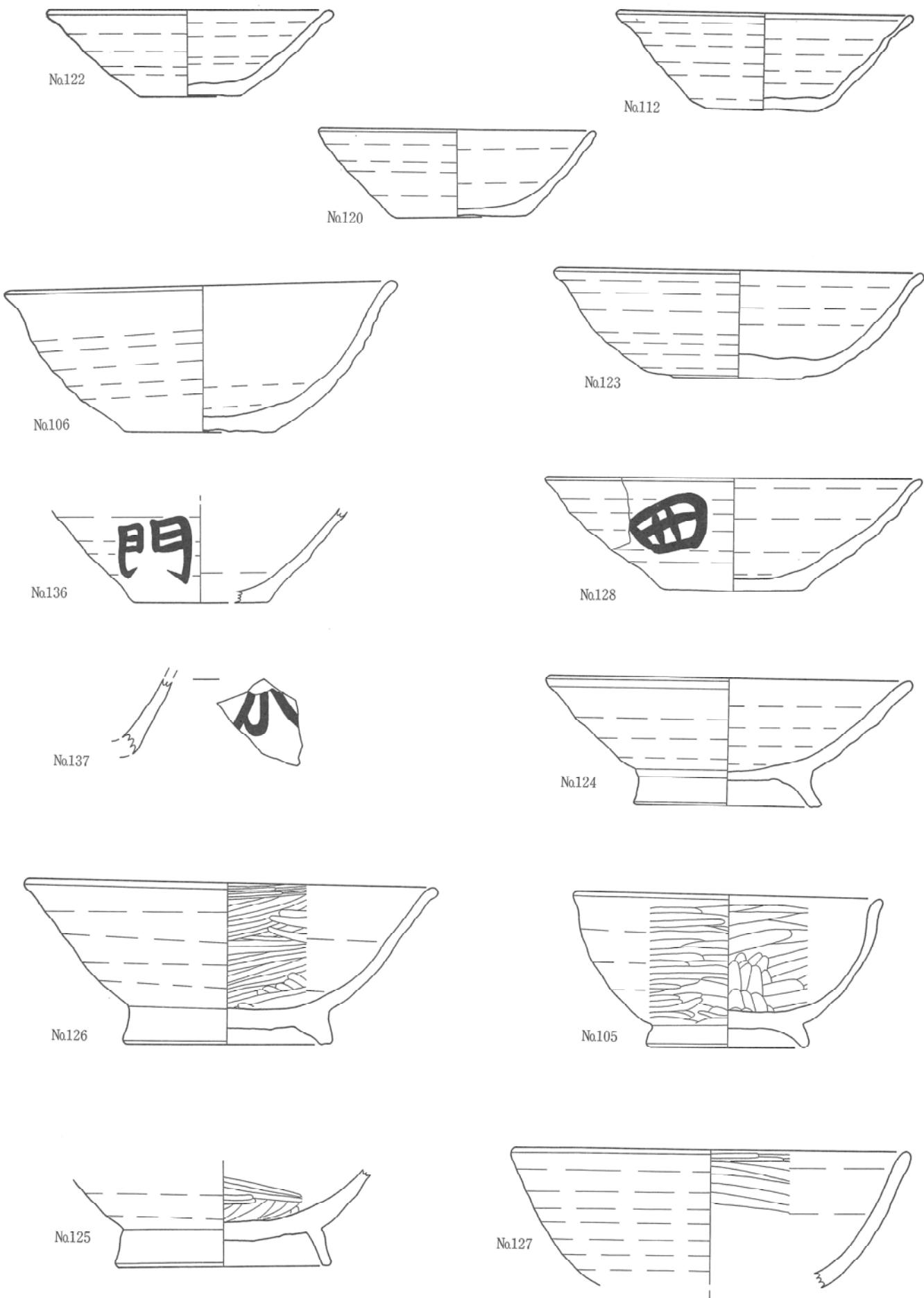


SK04出土遺物(3)-3



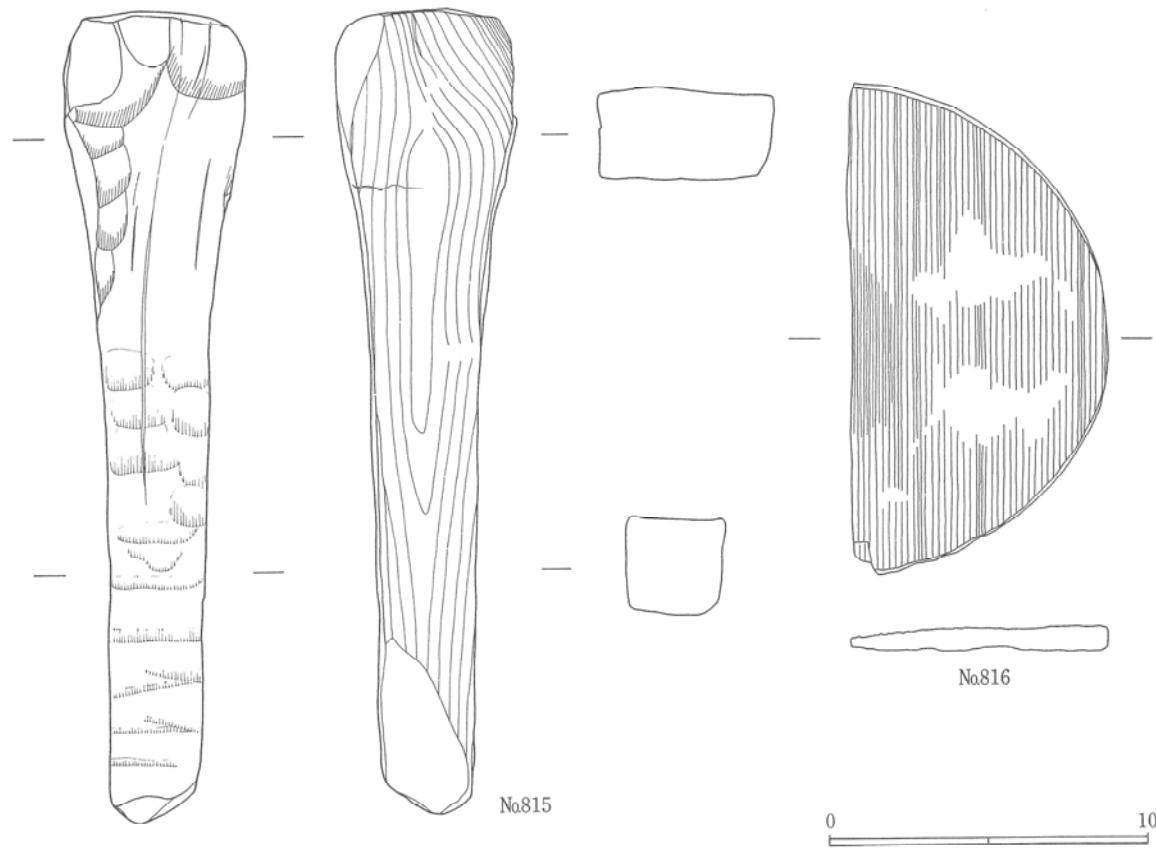
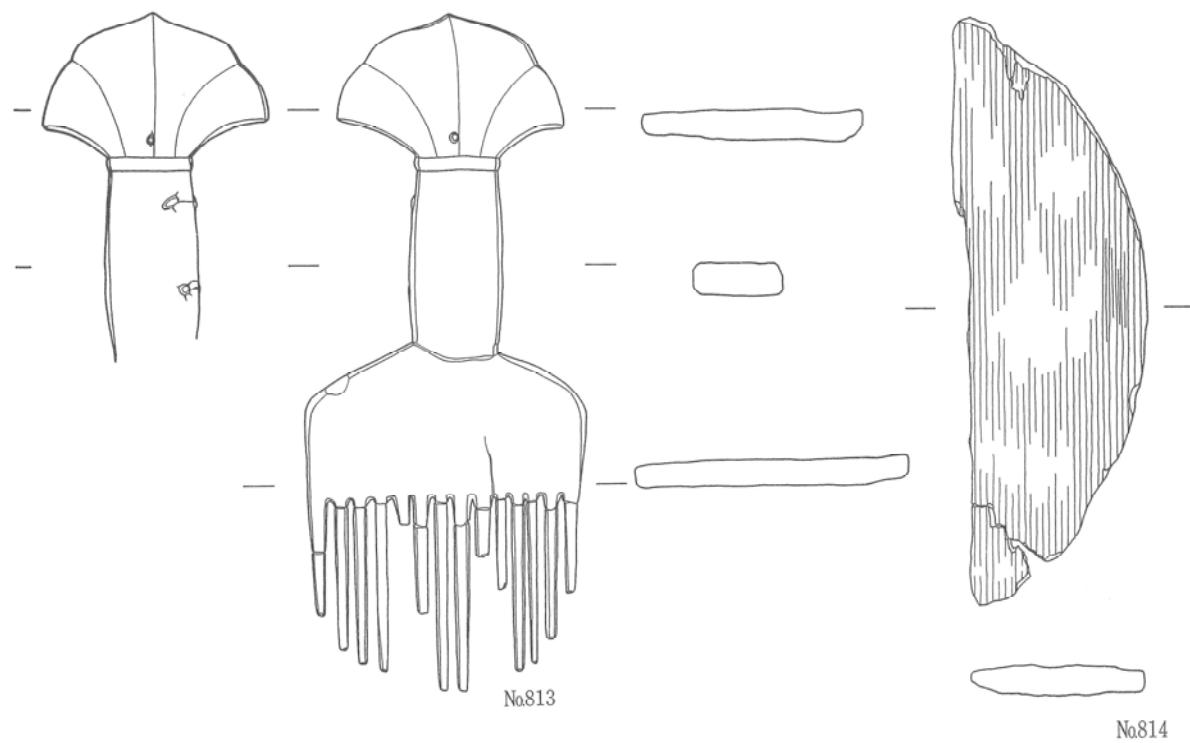
SK05出土遺物(1)-5

0 10 cm

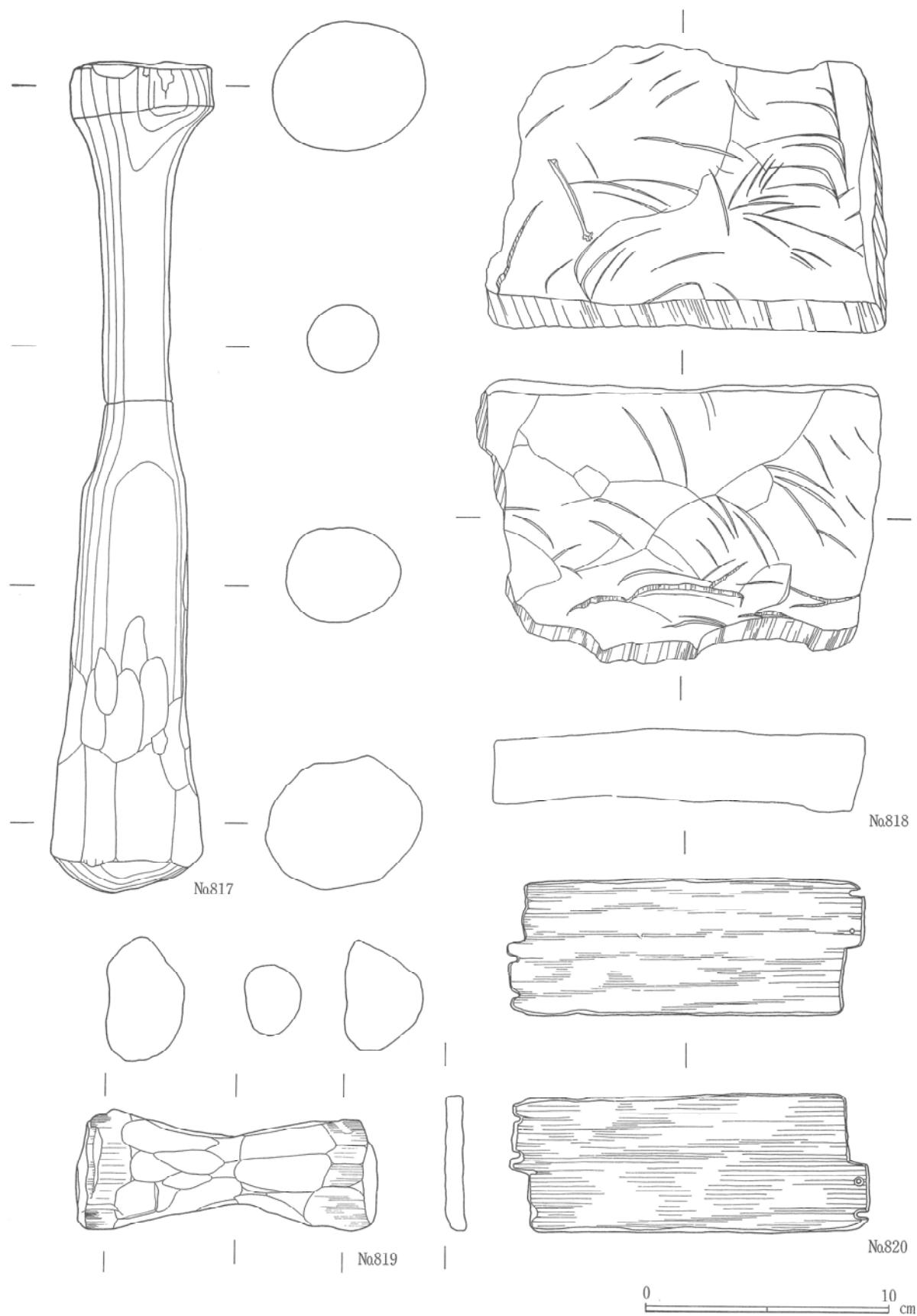


SK05出土遺物(2)-5

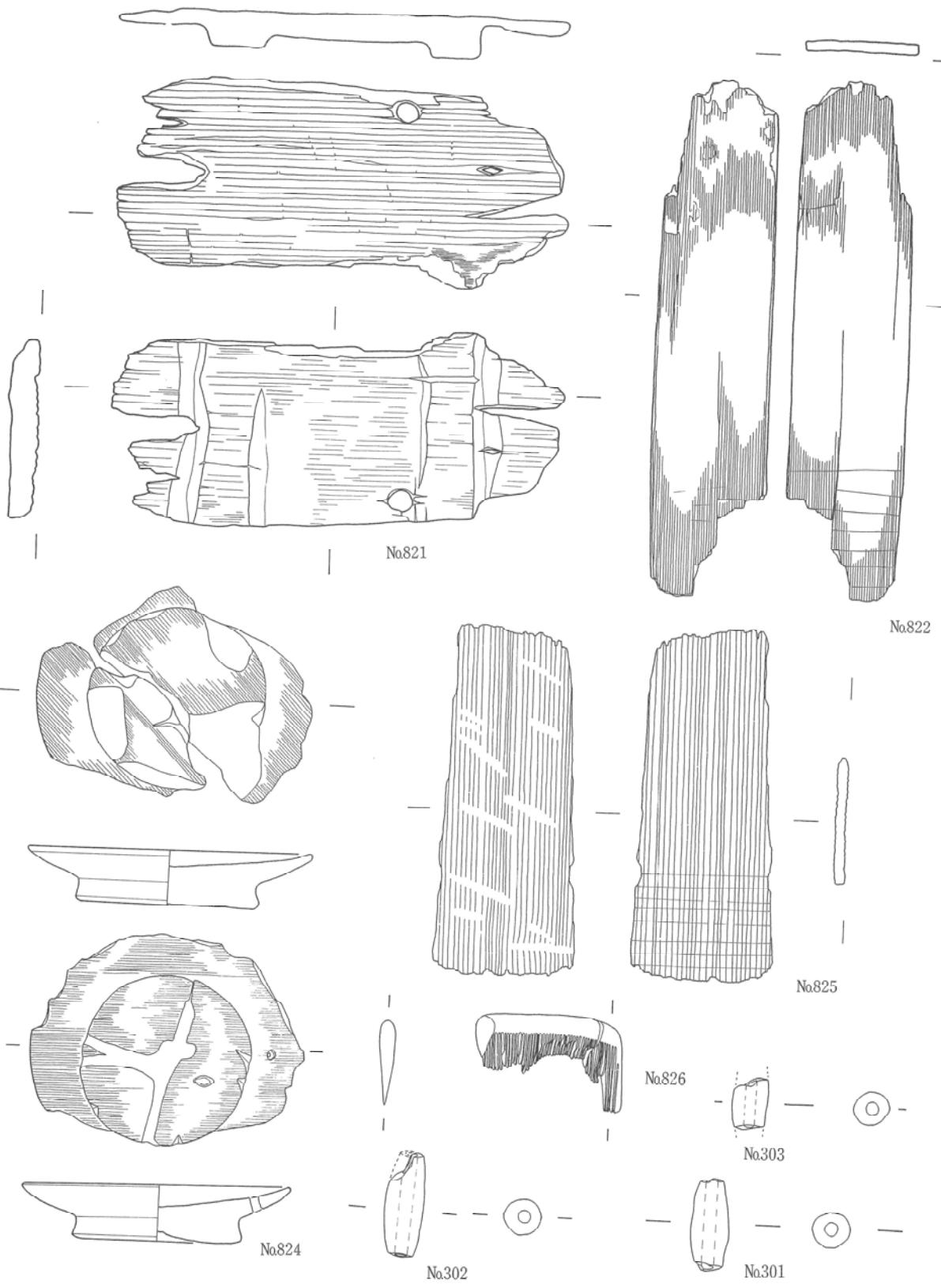
0 10 cm



SK05出土遺物(3)-5

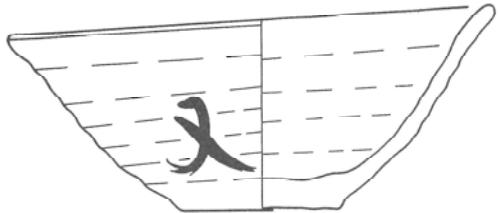


SK05出土遺物(4)－5

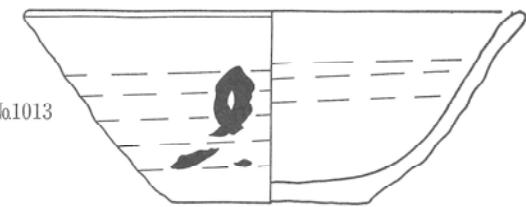


0 10 cm

SK05出土遺物(5)-5



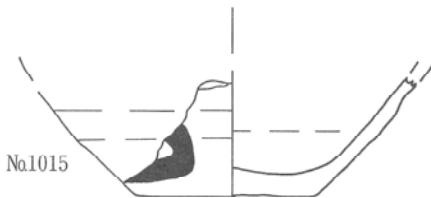
No.1016



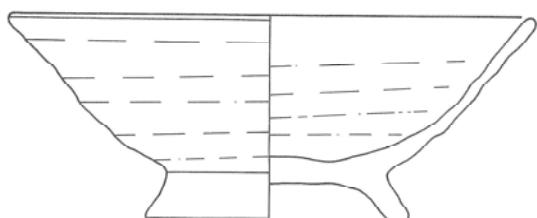
No.1013



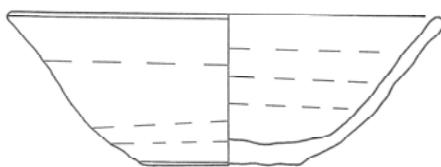
No.1014



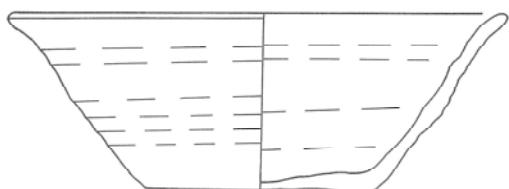
No.1015



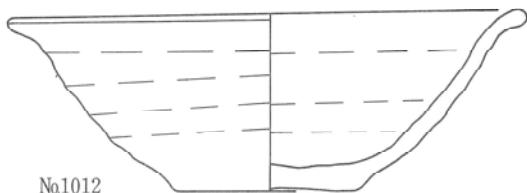
No.1005



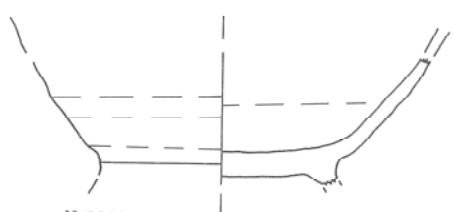
No.1003



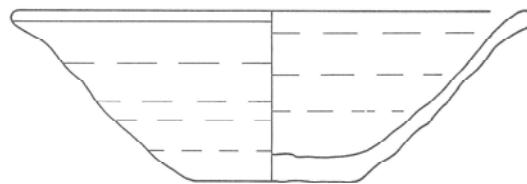
No.1011



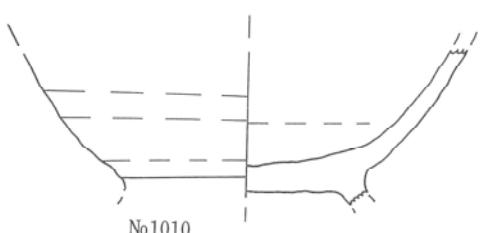
No.1012



No.1009



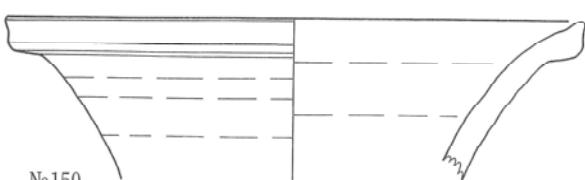
No.1004



No.1010



● No.167

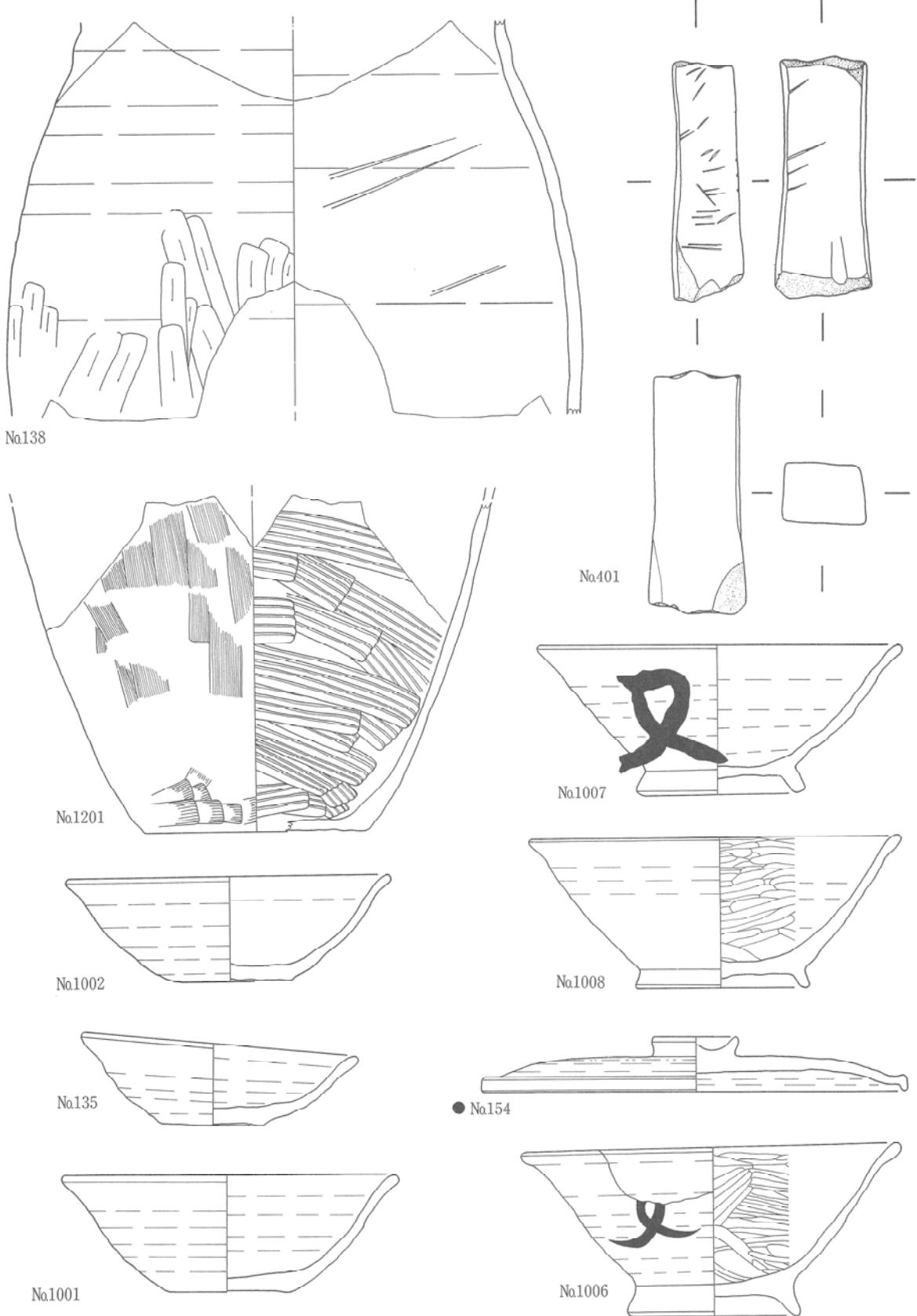


No.150



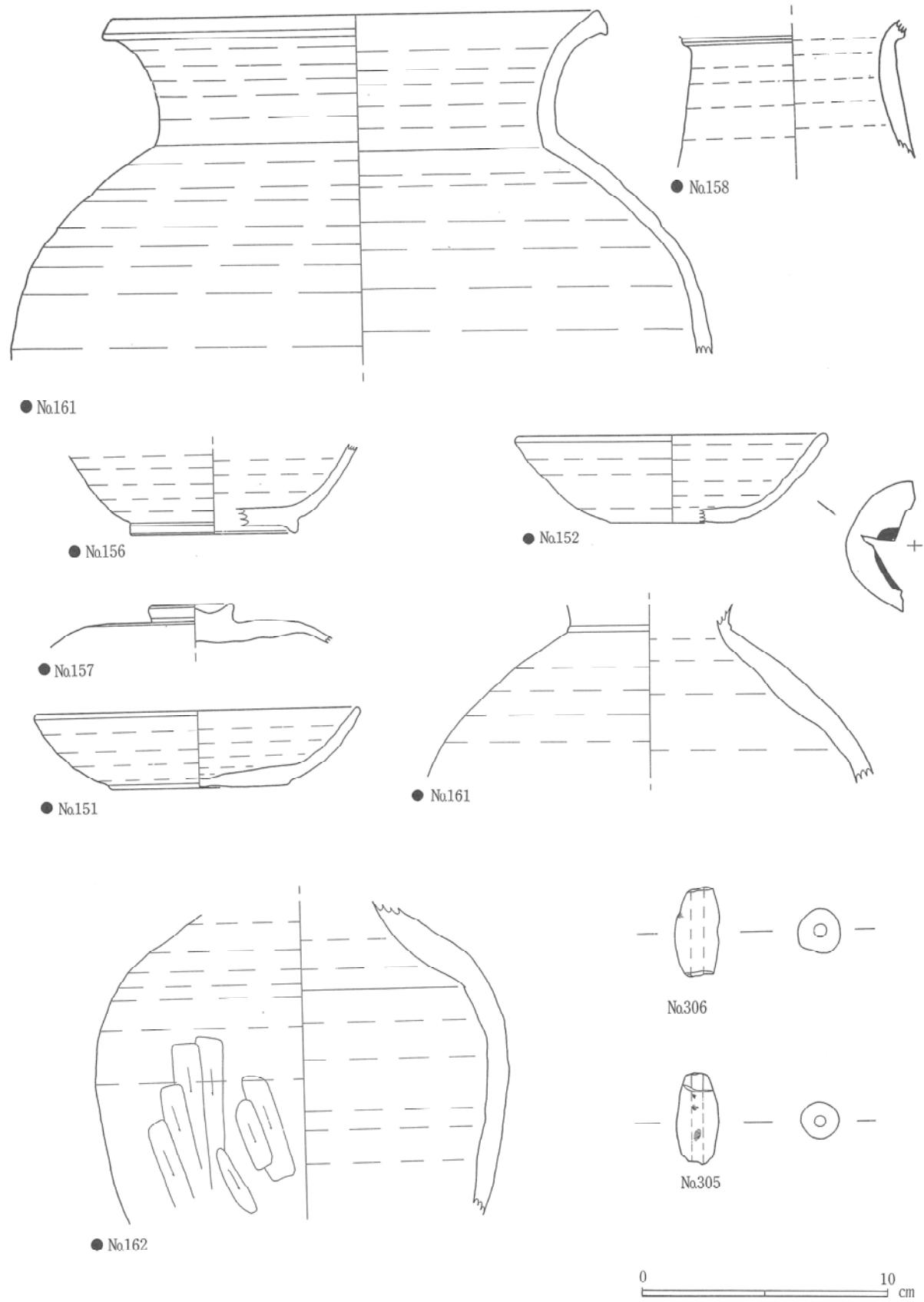
● No.166

その他の土壤(1)-2

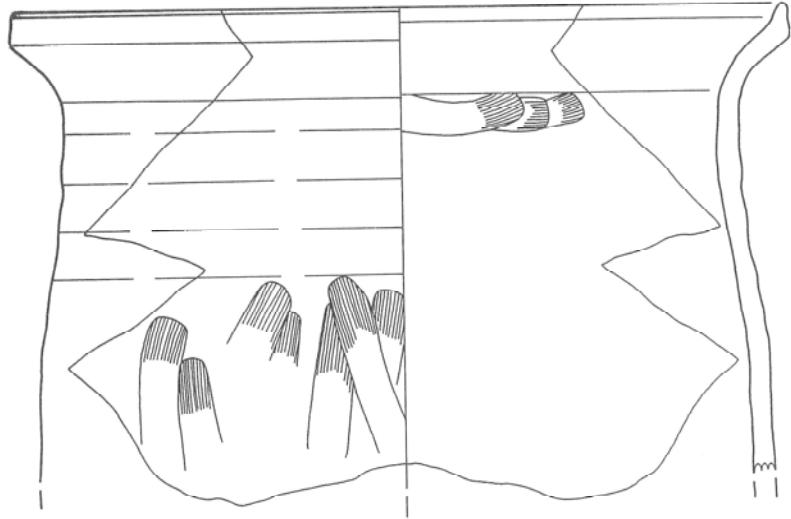


0 10 cm

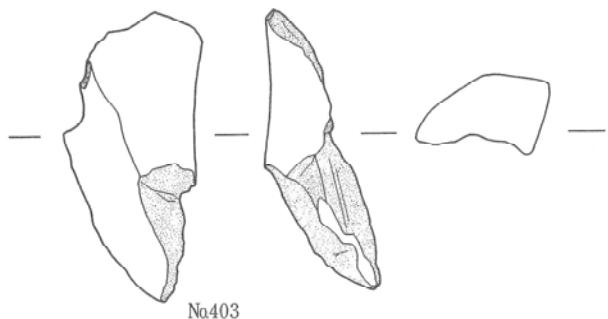
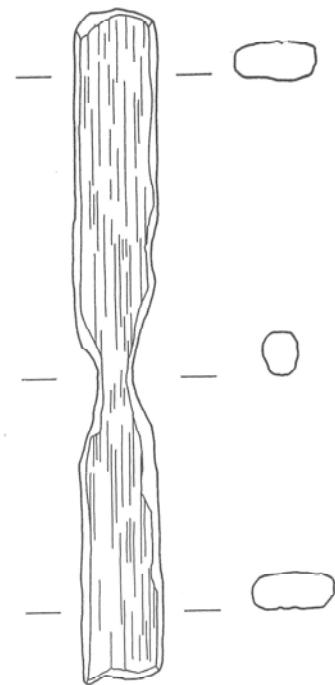
その他の土壤(2)-2



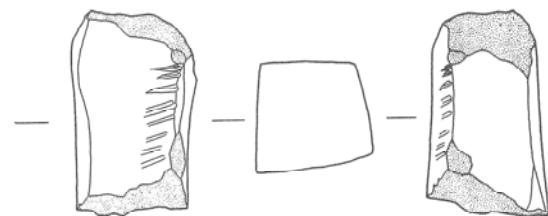
遺構外(1)-2



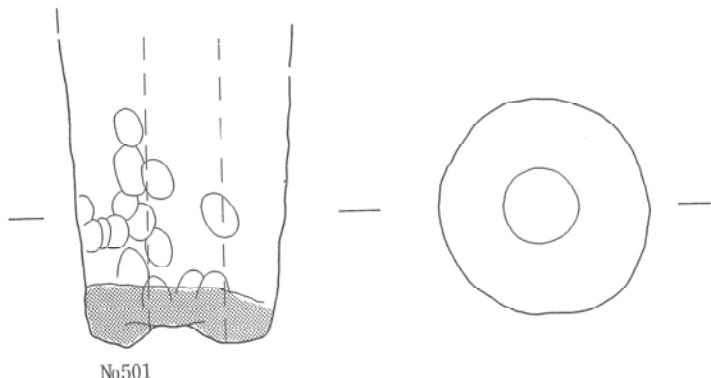
No.137



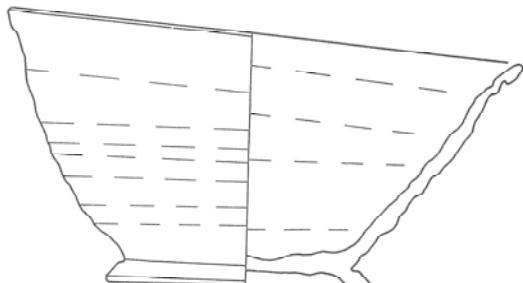
No.403



No.402



No.501



0 10 cm



# 写 真 図 版





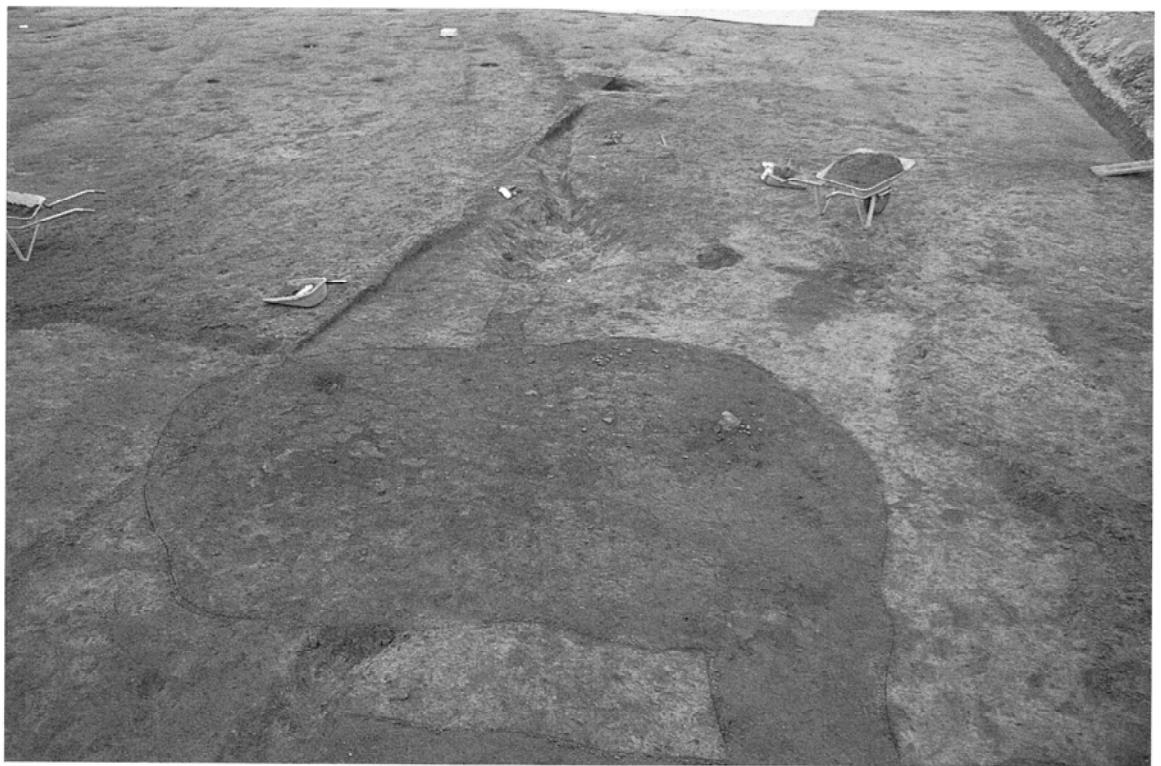
調査前 北から



SK01、03 検出状況



SK02 検出 南から



SK04 検出 南から



SK01、03 掘り下げ及びセクション 南から



SK02 南北セクション(北側) 東から



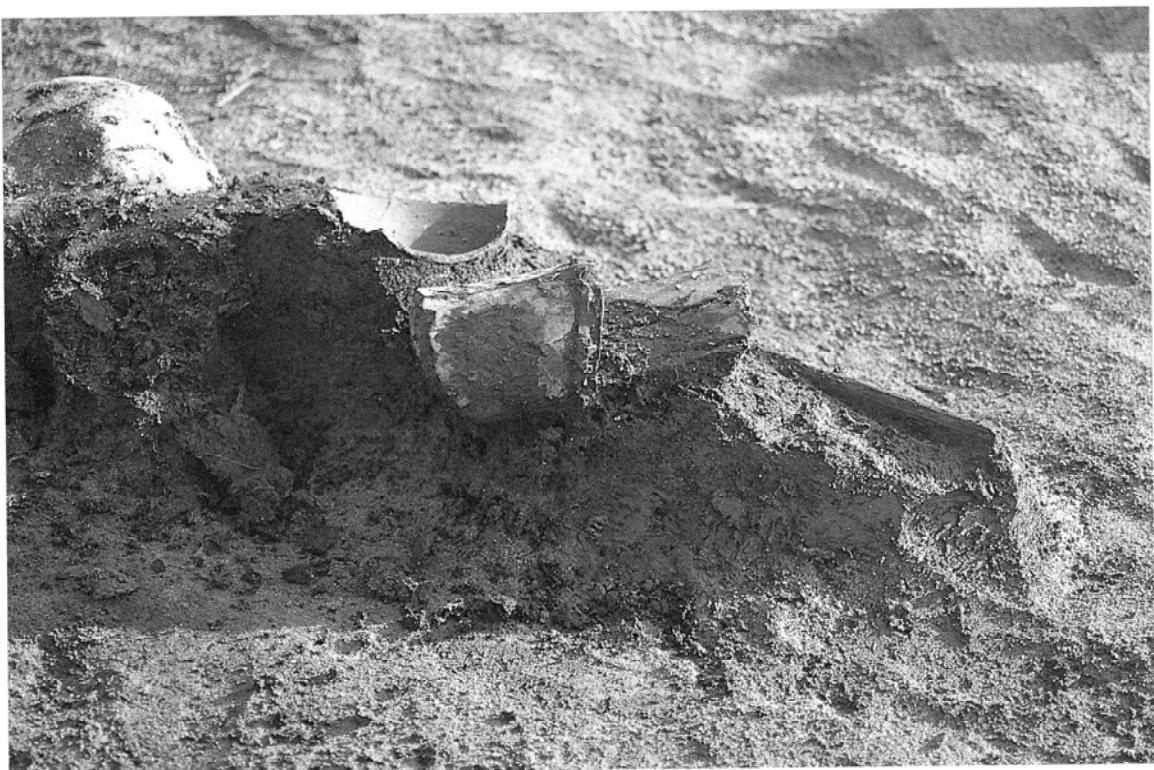
SK04 東西セクション(西側) 南から



SK05 縦櫛出土状況



SK05 南北セクション 東から



SK01 棘出土状況



SK01 完掘状況 南から



SK02 遺物出土状況 南東から



SK05 完掘状況



SK04、SD02 完掘状況 南から



No.8



No.22



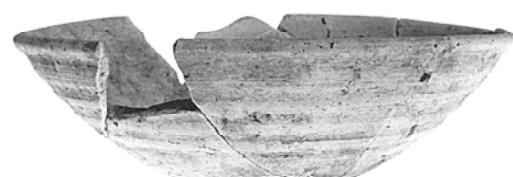
No.6



No.13



No.23



No.9



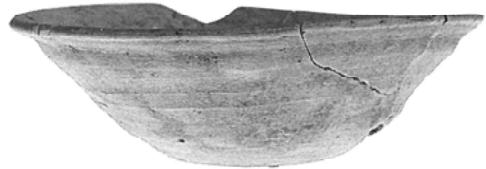
No.11



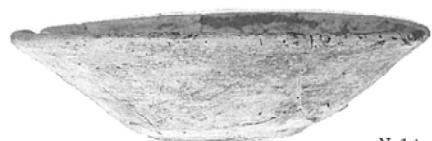
No.1



No.3



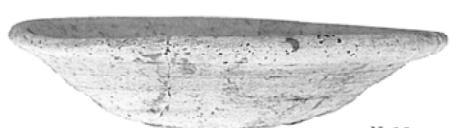
No.2



No.14



No.4



No.12



No.10

SK01出土遺物(1) - 2



No.7



No.13



No.16



No.15



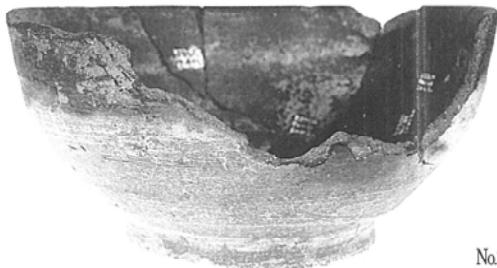
No.18



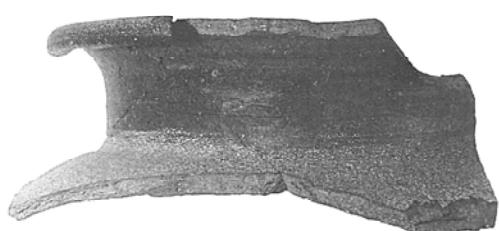
No.18



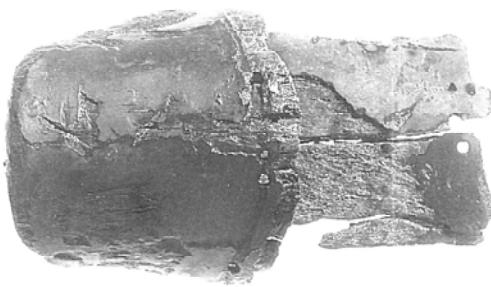
No.5



No.21



No.166



No.803



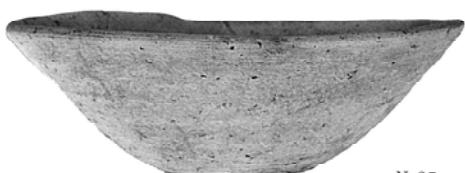
No.28



No.27



No.37



No.25



No.32



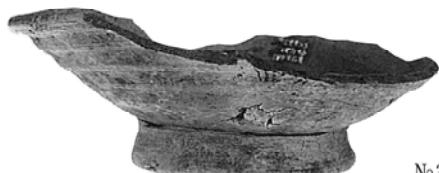
No.33



No.29



No.26



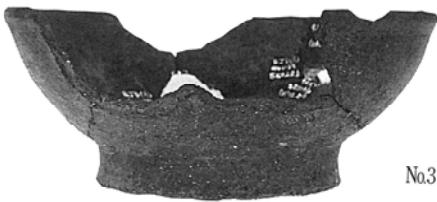
No.36



No.24



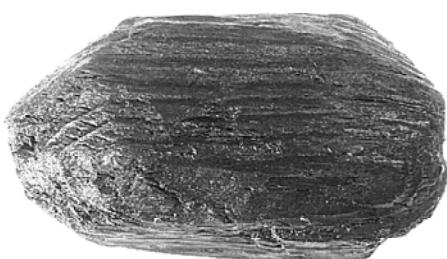
No.49



No.36



No.34



No.808



No.809



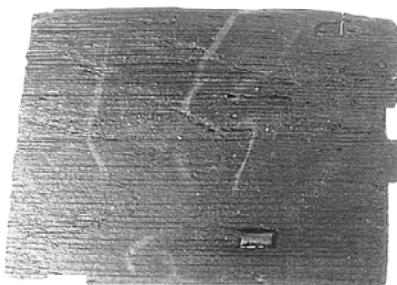
No.810



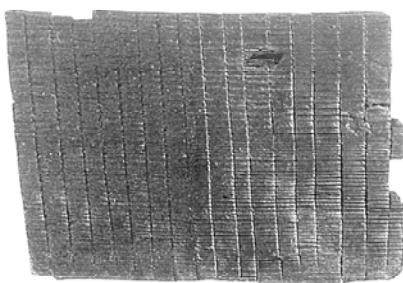
No.804



No.807



No.806



No.805

SK02出土遺物(2) - 2



No.87



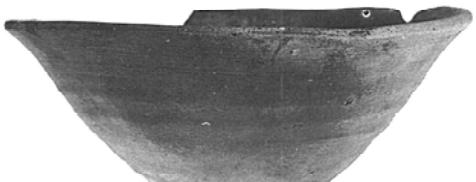
No.84



No.92



No.85



No.86



No.97



No.83



No.81



No.80



No.79



No.88



No.100



No.89



No.91



No.77



No.90



No.82



No.95



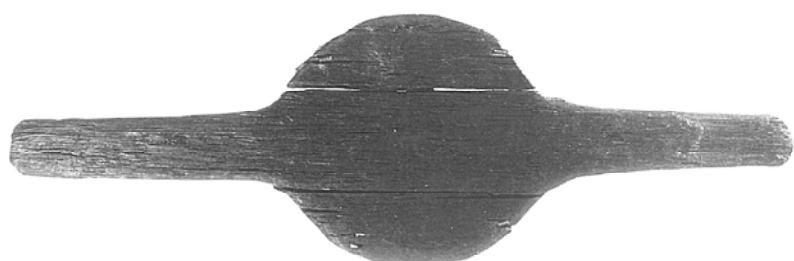
No.94



No.96



No.93



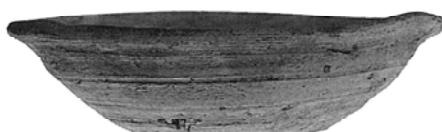
No.811



No.812



No.113



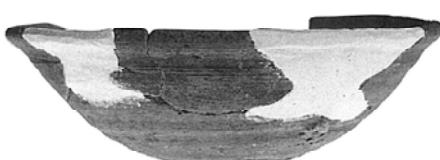
No.109



No.108



No.119



No.111



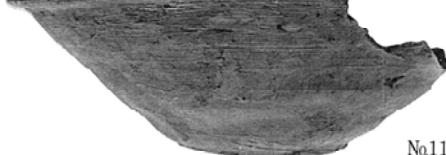
No.116



No.132



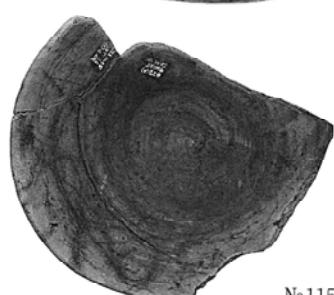
No.110



No.115



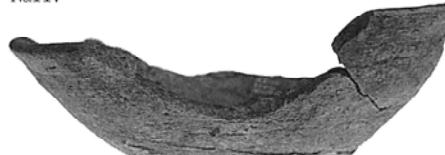
No.107



No.115



No.117



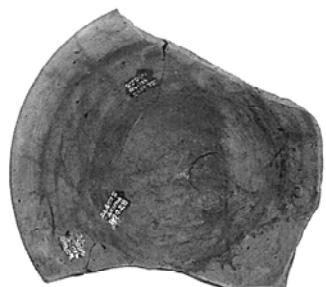
No.118



No.129



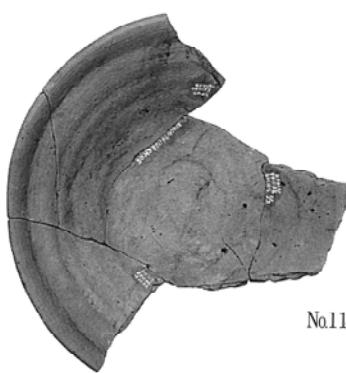
No.130



No.114



No.122



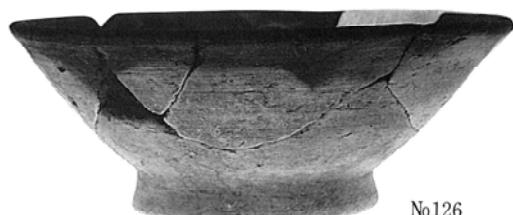
No.112



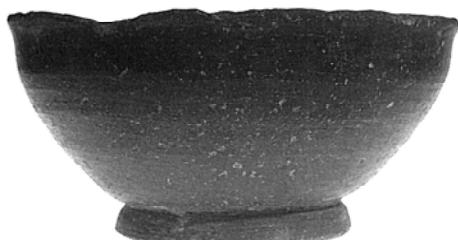
No.106



No.128



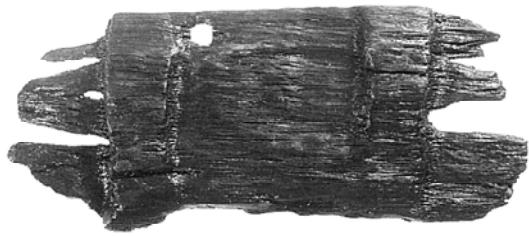
No.126



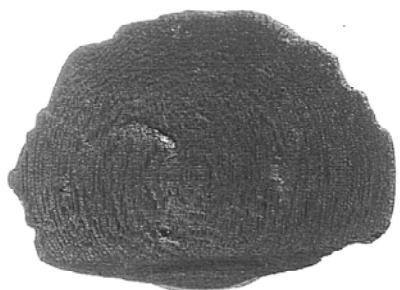
No.105



No.826



No.821



No.824



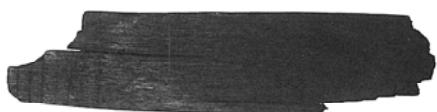
No.813



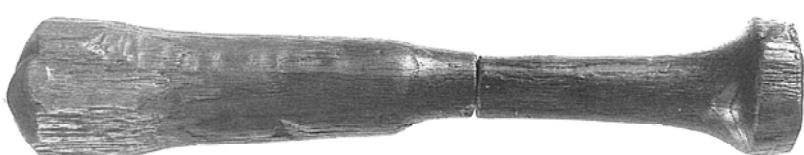
No.816



No.814



No.815



No.817



No.818



No.819



No.820



No.1016



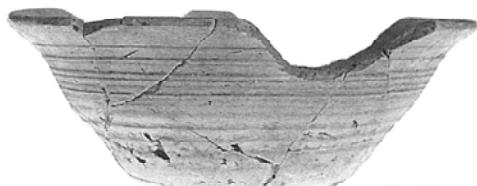
No.1013



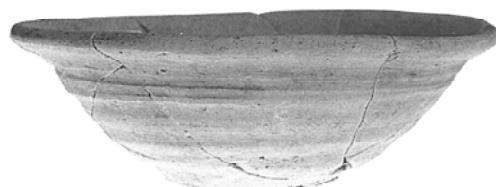
No.1005



No.1003



No.1011



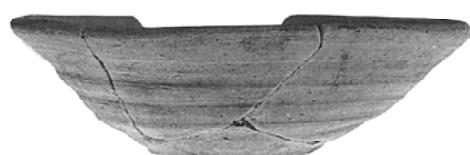
No.1012



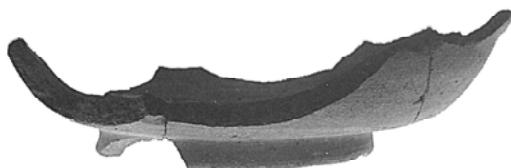
No.1009



No.1008



No.135



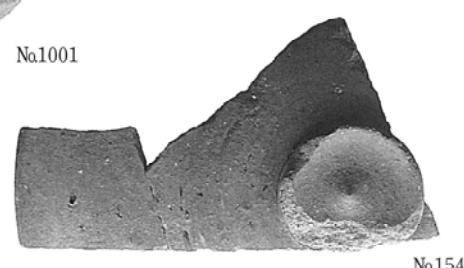
No.168



No.1001



No.1006



No.154

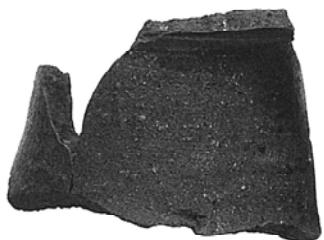
その他の土壤



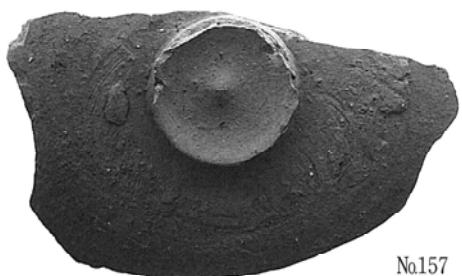
No.161



No.162



No.158



No.157



No.151



遺構外(1)-2



No.302



No.301



No.305



No.306



No.304



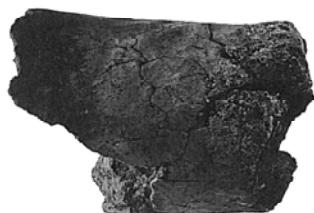
No.401



No.403



No.402



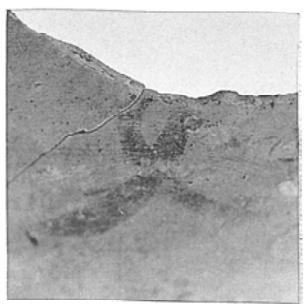
No.501



No.502



遺構外(2)



No.1006



No.85



No.83



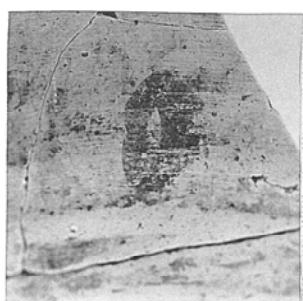
No.1007



No.101



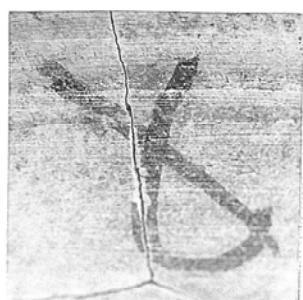
No.1016



No.1013



No.81



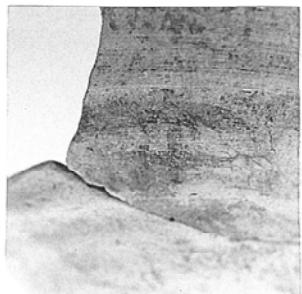
No.90



No.136



No.139



No.128

墨書集成

---

---

## 馬上台遺跡発掘調査報告書

平成7年3月

発行 山形市教育委員会  
山形市旅籠町二丁目3番25号  
0236-41-1212 〒990

印刷 藤庄印刷株式会社  
山形市北町一丁目3番1号  
0236-84-5555 〒990

---

---

